

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 53 号 (2013年)

目 次

同窓会長挨拶……………山中 國暉（昭43）	1
薬学部長挨拶……………中山 守雄	2
平成25年度長薬同窓会定期総会・懇親会……………	3
平成26年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
支部だより……………	5
関東支部，近畿支部，広島支部，山口支部抜天会，福岡支部浦陵会，大分支部，佐賀支部若楠会， 熊本支部，長崎県北支部，長崎県央支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	15
西川恭夫（昭26），服部俊明（昭28），郷野美智子（昭30），江本 篤（昭31），田崎三郎（昭34） 中尾哲朗（昭35），自見紀子（昭36），栗屋順子（昭36），福島祐作（昭37），S37卒業生有志 戸川和夫（昭38），松村祐子（昭40），高松 薫（昭42），伊藤充代（昭45），荒木一範（昭46） 西村敬一（昭47），井手 清（昭48），森つよ子（昭49），藤原正晴（昭51），山口正広（昭56） 高良真也（昭57），金子富美（昭59），佐藤多恵（昭61），本多雅幸（昭62），稲嶺達夫（平18） 川鍋早紀（平24），親富祖翔太郎（学部3年），堀 裕輝（学部3年），岸川直哉（平10），松尾洋介（平15）	
クラブOB会だより……………	50
野球部，硬式庭球部，バスケットボール部，軟式庭球部	
庶務報告……………	55
物故者氏名，学内記事	
長薬同窓会役員名簿……………	58
長薬同窓会支部一覧……………	59
会計報告（平成24年度決算，監査報告，平成25年度予算）……………	60
同窓会事務局だより	
編集後記	



ご 挨 拶

会 長 山中 國暉 (昭43)

今年の日本列島は異常気象で突然の大雨、竜巻と種々の大きな災害に見舞われ、全国各地で被害が続出しています。会員の皆様はいかがだったでしょうか。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

大分県別府市で開催された平成24年度の定期総会で会長を仰せつかって1年がたちました。私たち新役員は「顔の見える同窓会」をめざし、多くの会員の皆様のご協力を得て長薬同窓会の発展と会員皆様の交流促進につとめました。その結果、会員の皆様のご協力で各支部の総会や学年ごとのクラス会等で交流を図っていただきました。会の様子等を毎年発行している長薬同窓会報にご報告ください。

今年、平成25年度長薬同窓会定期総会は長崎県北支部（相川康博支部長・昭47）の会員の皆様のご協力を得て、6月8日（土）佐世保市ハウステンボス町のホテルオークラJRハウステンボスにて開催致しました。出席者は約90名で4月7日の理事会の議決どおり議案は全て了承されました。その際、同窓会費年額3,000円を5年以上未納の方へは会員名簿をお届けしておりませんでした。が、次回より3年分9,000円納入で同窓会会員名簿をお送りすることに決定しました。何卒会費の納入にご協力をお願い致します。

さて、長薬同窓会の事業について報告いたします。8月第一日曜日に長崎市坂本町のグビロが丘の原爆慰霊碑周辺の清掃。8月9日に医学部主催の原爆犠牲者慰霊祭への参加。11月には諫早市の小野島校舎跡記念碑の清掃、ホームカミングデーへの出席。長崎大学では、各学部同窓会の集合体として全学同窓会を設立していますが、今年度も長崎大学文教キャンパスでホームカミングデーが開催されました。その会に出席し他学部の同窓生とも交流を深めました。3月に私は、長崎ブリックホールで開催の長崎大学卒業式に出席し、8学部の同窓会を代表して祝辞を述べる大役を務めました。その後、学部の卒業式で卒業生に

はなむけの言葉を述べるとともに、全国各地に支部の同窓会があるので参加して下さるようお願いしました。また、同窓会として記念アルバム（卒業アルバム）制作費に20万円補助したことなど説明しました。

今まで、同窓会に振り向いてくれない会員に対し「顔の見える同窓会」として、また将来の同窓会を担う準会員の在校生に対し、アルバム制作の補助の他に学祭出店の補助や、学祭のスポーツ大会で優秀な成績を収めたチームに金一封の進呈をしました。来年は2年次学生に対し同窓会のネームの入った白衣の贈呈を行うことなどを企画しております。

さて、長薬同窓会では3年毎に会員名簿を発行していますが、本年がその発行年に当たり、その準備を進めているところです。この会報と同時に皆様のお手元に届いているでしょうか。現在、会員数は5,000名を数え、全国の各分野で幅広く活躍されています。長薬同窓会の目的は、会則にありますように、「会員相互の交誼を親密にして併せて母校並びに会員の発展連絡を期すること」にあります。従いまして、名簿の発行は、同窓会事業を滞りなく推進していく上で最も重要な事業であるということが出来ます。氏名、住所、勤務先等変更のあった方はご面倒でもその都度事務局にご連絡をお願いします。

報告が遅くなりましたが、中島憲一郎先生（昭46）が退職され、新たに川上 茂先生（平7）が教授として着任されました。川上先生には本部役員として編集幹事をお願いしました。

来年、平成26年度の定期総会は長崎支部ぐびろ会（濱田哲也会長・昭54）のお世話にて長崎市で6月7日（土）に開催いたします。併せてクラス会等を企画してください。

最後にこの長薬同窓会を核にして、同窓生を取り巻く大きな環境の変化に的確に対応し、同窓生が各々の立場で大いに活躍し発展していけますように祈念してご挨拶といたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 中山 守雄

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、皆様方には、常日頃より、長崎大学薬学部にご支援いただいておりますことに対し厚く御礼申し上げます。学部長の任期は、2年間ということでございますが、はからずも、学部長をもう1期務めさせていただくことになりました。あらためて、ご指導、ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。

ところで、今年の3月に送り出した卒業生は73名、そのうち6年生課程の卒業生は39名でした。薬剤師国家試験は、薬学科卒業生39名全員が受験し、合格者38名、97.5%の合格率となり、大きく値を下げた全国平均をゆとりをもって超えることができました。薬学部内の国家試験対策委員に加え、学生相談支援委員会を立ち上げ、個別の指導に力を注いだことも功を奏しているとは思いますが、新国家試験では、実務実習での学習内容が反映する問題内容になっていることから考えても、実務実習での皆様方のご指導の賜物と感謝しているところです。なお、薬学科の卒業生の就職先は、病院へ就職した学生が19名、うち長崎県内での就職は8名。保険調剤薬局に就職した学生が、12名という内訳でした。最近の傾向として、同時期に入学した大学院博士前期課程の学生の激しい就職活動の影響を受けてか、薬学科でも、6年生の4月から就職活動をする学生が大勢をしめてきています。一方、その薬学科の学生と同時に入学した薬科学科の学生は、ほぼ、大学院の修士課程に進学していましたが、この3月に修了した学生のうち、博士後期課程に進学した6名の学生以外は、厳しい就職活動であったとはいえ、100%の就職率となりました。その内訳は、製薬関連企業への就職が14名、化学工業が9名となっています。なお、薬学部への入り口の入学試験の状況は、前期課程入試の倍率は、薬学科が3.7倍、薬科学科が6倍と依然、高倍率で推移しております。

大学院については、4年生の博士課程が、初めて設置されたことに伴い、従来、生命薬科学専攻に属していた、医療情報解析学、薬物治療学、薬剤学、病院薬学の4研究室が、医療科学専攻の展開医療薬学講座へと移行する組織改編が行われたことは昨年もご報告しました。一方、大学全体のグランドデザインとしては、大学院が、医歯薬学総合研究科となって以来、薬学部の医学部や病院のある坂本地区への移転が、構想されているところですが、今年になって、旧歯学部C棟の改修が決定し、医療科学専攻、すなわち、臨床系の4研究室が組織だけではなく地理的にも、医学部、病院地区への移転することが決定致しました。すでに、建物内部の設計も終わっていますが、実際の移転は、平成27年春ということになります。残りの研究室の移転は、まだ、メドがたっていないこともあって、分離

キャンパス状態になることから、教育研究への支障を最小限に抑え、医薬連携の進行を進めることが、我々に課せられた課題と考えており、すでに、分離キャンパスの形態をとっている岡山大学、千葉大学等の情報も入手し、早めの対応を行う予定です。

さて、今年の9月には、皆様ご存知のように、下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター主催の第1回最先端創薬科学シンポジウムを、下村 脩センター名誉顧問のご出席の下に開催しました。この企画は、畑山センター長、城谷センター准教授を中心とするメンバーの尽力で実現した事実上のキックオフシンポジウムで、この開催にあたって、長薬同窓会には多大なるご支援をいただき、感謝しているところです。この、シンポジウムの他に、薬学部本館前のセンター銘板の設置、全国薬学部教員名簿への記載等、ゆっくりとした歩みではありますが、認知度を上げていく取り組みを進めており、さらに薬学部教員が協力してさらなる実質的活動につながることを期待しているところです。また、2015年には薬学部創立125周年を迎えます。これについても、今後の教育研究の向上に寄与できる事業を計画できたらと思っております。引き続き、皆様方の一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

最後に、この1年での主な異動について報告いたします。まず、昨年11月には、天然物化学分野の准教授として齋藤義紀 先生が、徳島文理大学薬学部から着任されました。本年4月に医療情報解析学分野の教授に、川上 茂先生が着任されました。川上先生は、本薬学部平成7年のご卒業です。同じく4月には、衛生化学分野の原武 衛先生が、崇城大学薬学部の教授として転出されました。8月には分子薬理学の黒須 洋 先生が、東京大学大学院薬学研究科に転出されました。1月には、感染分子薬学分野の渡邊 健 先生が、本学リーディング大学院の助教として移動されました。さらに、プロジェクト事業に伴う教員として、文科省の大学間連携共同教育推進事業連携事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」に江頭かのこ 先生が、准教授として加わりました。また、長崎大学創薬拠点には、酒井佑宣 助教、水谷龍明 助教、水田賢志 助教が加わり、分子薬理学分野にも、永井 潤 助教、内田仁司 助教が加わる体制となっています。

以上、長崎大学薬学部の近況を報告させていただきましたが、今後とも、薬学部に対する、同窓会の皆様方の一層の御支援、御高配を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成25年度長薬同窓会 定期総会・懇親会

本年度は、長崎県北支部（相川康博支部長）のお世話で、平成25年6月8日（土）に長崎県佐世保市のホテルオークラJRハウステンボスで開催されました。約90名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。

懇親会の余興では長崎国際大学学生の変面の披露があり、大変盛大な会となりました。その模様を一部ご紹介いたします。内容につきましては庶務報告をご覧ください。



総会の様子



校歌斉唱合唱団



総会の様子



長崎県北支部長ご挨拶



中山守雄薬学部長ご挨拶



変面の披露



変面の披露



懇親会



懇親会



万歳三唱



平成26年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 平成26年6月7日(土) 17:00～総会 18:00～懇親会(予定)

場所 ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒル

長崎市南山手町1-18 Tel 095-818-6110

3年に一度の長崎での開催を、長崎支部ぐびろ会一同心より「おもてなし」いたします。会場はグラバー園のすぐ近くです。この機会に、学生時代を懐かしむばかりでなく、異国情緒あふれる長崎の街を満喫されるのもいいですよ。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

支 部 だ よ り

●● 関東支部 ●●

支部長 樋口 宗司（昭42）

関東支部では支部総会を11月9日（土）の午後に「文庫Caféみねるばの森」で開催しました。支部総会に先立って、吉岡ゆう子さん（昭56）の講演「人と薬の羅針盤 出版取材顛末記」を参加者20数名で聴講しました。今回、出版された「人と薬の羅針盤・黎明編」は、江戸時代に長崎に入ってきた西洋医学と薬のルーツを求めて、遠くエジプトやギリシャ、ローマにまで足を延ばして取材した医薬の歴史紀行です。何度かにわたる取材旅行には、平成3年卒の城戸真由美さん、夫でグラフィックデザイナーの聡さんも同行されたとのこと。政情不安のため、昨今は旅行できない地域でのスナップ写真なども紹介され、取材した内容と共に感銘深いものがありました。

関東支部総会で、私は来賓としてご来京頂いた川上茂先生（平7）に「大歓迎の意を表します」と挨拶しました。その理由は、「最近では長崎に行く機会があっても母校に顔を出すことはなくなった。かつては必ず遊びに行ったものであるが、それも20年ほど前に途切れた。教授として母校に残る同窓生が少ないので、行きたくても行く先がないのである。そのような背景から、一昨年の同窓会総会では、同窓生の教授が生まれるような活動を本部に提案した。また、昨年の8月には、この文庫Caféで『学長と関東地区同窓会代表者との懇談会』が開催され、片峰学長から同窓会は力強い応援団になって欲

しいという要請を受けた。レクチャーの後の質疑で、私は応援団として活動するためにも『自前の教授を』と学長にアピールした経緯がある。その切なる願いが通じた訳ではなかろうが、同窓生の川上先生が長薬の教授に就任され、私は心底から嬉しく思う」と述べた次第であります。

次いで、川上教授にご登壇を願い、来賓のご挨拶と、「最近の長崎大学の現況」について、講演を拝聴しました。川上先生には、「多文化社会学部」新設のニュースや薬学部最近の状況、さらに川上教授の専門分野の紹介等を詳しくお話しして頂き、参加者は大学の現況について理解を深めることができました。とくに印象に残ったことは、病院薬剤師との連携を密にして、臨床薬学の研究と人材養成を強力に推進していく…、という川上先生の取り組みです。薬学教育6年制の導入に伴い、全国的に「医学部との連携」が重要になっていますが、長薬の場合はすでに強い結びつきがあることに加え、今後もさらに病院薬剤師との連携を深めてゆくという構想で、大変心強いものを感じられました。

総会後の懇親会では、「これからは大学に行きやすくなるね」、「長崎に行ったら川上先生の教室を訪ねてみよう」という話が聞かれ、川上先生からは「是非、遊びに来てください、長薬出身の中嶋教授と共に歓迎致します」という会話が弾みました。「これが同窓会のあるべき姿」と強く感じながら、ときが経つのを忘れるほど楽しい会になりました。

同窓会は従来からの「親睦」に加えて、「大学の応援団」としての役割を果たそうというスタンスが大切だと感じています。



平成25年11月9日 於 文庫Caféみねるばの森

●● 近畿支部 ●●

支部長 梶野 繁 (昭42)

近畿支部では、本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会を平成25年10月12日（土）午後、長薬同窓会から梶島 力先生（平4・会計幹事・薬学部准教授）を迎え、来賓を含む26名の出席のもと大阪弥生会館で開催しました。

総会に先立って行われた特別講演は、西垣敏明氏（昭47）より「熱帯薬用植物に魅せられて」というテーマでお話していただきました。西垣氏が1999年インドネシアを訪問した折、古き友人から「ノニ」の果実は、医者いらずの栄養食品として利用されていることを知りました。長薬教授、中島先生の指導を受けながら有効成分の研究を進め、研究すればするほど血液をさらさらにするなど不思議な効果を持つ果物であることを見つけました。今ではノニジュースとして日本でも広く知られるようになりました。更にブアメラの赤い果実も肺がんの発生リスクを制御することがわかり、この2つの熱帯薬用

植物に魅せられ研究を続け実用化できるようになったとの報告がありました。

総会では同窓会報告として梶島会計幹事から今年6月、佐世保で開催された同窓会定期総会で紹介された本部の活動方針や薬学部近況、方針、同窓会活性化の取り組みなどを報告していただきました。

近畿支部総会では第1号議案～第5号議案は原案通り承認されました。

今後の取り組みとして、2019年に近畿支部設立100周年を迎えるにあたって、記念事業を行うことが決まりました。今後その準備をはじめていきます。

総会に引き続いて懇親会は山戸 寿（昭30）先輩の乾杯の音頭で始まりました。松本みさき（平15）さんの軽快な司会で参加者全員の方から近況報告をいただきました。短い時間でありましたが大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。特に今回は昭和12年卒の荒木豊成先輩が娘さん（近藤律子さん昭44）と一緒に出席していただき、大変うれしく思いました。

最後は道家利彦さん（平20）の万歳三唱で終わりました。

また、本年も会員の交流と親睦を図るため会報18号の発行をします。



平成25年10月12日 於 大阪弥生会館

●● 広島支部 ●●

支部長 青野 拓郎 (昭52)

長薬広島支部同窓会を平成25年10月20日（日）にホテルニューヒロデンで開催しました。長薬同窓会副会長の中嶋

幹郎先生をお招きして、ここ数年で一番参加者の多い17名の会となりました。

例年通り橋口先生（昭36）の司会のもと始まりました。支部長挨拶、続いて久しぶりに参加して頂いた松浦先生（昭16）の乾杯挨拶の後、会食懇談となりました。

歓談の中で松浦先生から学生時代の話、呉市に戻られてからの仕事の話、呉市薬剤師会の社団法人化の話などい

ろいろお聞きすることができました。また中嶋先生からは、最近の長崎大学薬学部の様子や先生の御活躍の様子をお聞きすることができました。出席者からの4年制と6年制の違いについての質問にも詳しく分かりやすく説明して頂きました。今年卒業されたばかりの中谷先生（平25）の勤務先である倉敷中央病院（薬剤師が80人以上も勤務）に関する話にも興味深いものでした。

近況報告では、いつもの年と同様に旅行の話、現在の仕事の話やご自身の病気の話、ご家族の病気の話等、様々な出来事をお聞きました。

この近況報告で大いに盛り上がり、時間をだいぶオーバーしてしまい校歌斉唱する時間がなくなり、写真撮影が済んだところで閉会・解散となりました。

来年も参加者を増やすために、同級生、近くの学年の方、

同じ教室出身者を誘い合って頂けたらと思いますので、よろしく願いいたします。

出席者

松浦 隆人（昭16）	工藤 重子（昭32）
橋口 信彦（昭36）	左利 龍彦（昭38）
村上 郁子（昭43）	品川龍太郎（昭44）
芦田マサ子（昭45）	曾根 正勝（昭46）
青野 拓郎（昭52）	渡辺真由美（昭52）
後河内厚行（昭53）	小野 美子（昭55）
入船 直美（昭57）	岸川 映子（昭60）
手島 賢二（平8）	中谷 勲男（平25）
来賓 長薬同窓会副会長	中嶋 幹郎先生（昭57）



平成25年10月20日 於 ホテルニューヒロデン

●● 山口支部抜天会 ●●

事務局 伊藤 弘範（昭55）

山口抜天会は、2、3年に1回開催しているところですが、前回は平成23年7月9日に16名の参加で開催でした。

前回から2年を経過するということで、若松輝明会長（昭45）から開催の指示があり、私が今回の世話人として開催の事務をするように仰せつかりました。

全く初めてのことで段取り等も分からないまま月日が

たち、世話人会（会長以下7名）を開催したのが9月でした。話はその日のうちにまとまり、皆さんが集まりやすい、今までも使用したことがある新山口駅前の山口グランドホテルで10月26日（土）に開催することとなり、同窓会から県内の同窓生の名簿をいただき、開催案内を送付しました。

150名を超える方々に御案内をしたところですが、御案内から開催までの日にちがあまりなかったことで、既に他の予定が入っていた方や、ご高齢でお越し頂くことがかなわなくなった方々などがいらっしゃり、17名の参加連絡となりました。

また、急遽療養が必要となられた方や、10月にもかかわらず大型台風の接近のために参加を見合わせた方もあり、最終的には15名の参加となってしまいました。

幸いなことに当日は台風の影響もなく開催できる運びとなり、長葉同窓会から山中同窓会長をお招きすることができ、なんとか総勢16名と前回と同数の参加者となりました。

会は、若松会長の挨拶から始まりました。若松会長も会長を5年務められたということで、新しい会長に今村明久さん（昭49）が就任されることとなりました。



山中同窓会長からは、大学や同窓会の近況についてお話をいただきました。

今村新会長の乾杯の後、しばらく歓談いただき、参加された皆さんお一人ずつ近況の報告をいただきました。学生時代の話やゴルフの話など色々な話題で楽しい時間を過ごすことができました。

閉会前に全員で薬学部校歌を斉唱（今回はメロディ付きでした。）し、大平健一さん（昭49）の万歳で盛会のうちに散会となりました。

これからは若い方々にもより多く御参加いただければように努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

出席者

小川 満子（昭35）	若松 輝明（昭45）
今村 明久（昭49）	大平 健一（昭49）
山崎 秀樹（昭50）	末田 淳子（昭53）
高橋 久美（昭54）	伊藤 弘範（昭55）
岡 幸夫（昭59）	野村 由子（昭60）
椎木 康之（昭63）	大畑 教昭（院平2）
椎木ひとみ（平2）	西島 恵（平7）
黒瀬 恵（平11）	



平成25年10月26日 於 山口グランドホテル

●● 福岡支部浦陵会 ●●

幹事 松原 大（昭58）

長崎大学薬学部福岡浦陵会は、昨年休会しておりましたが、1年に1度くらいは顔合わせでもしたいという要望がありましたことから、平成25年9月8日に天神の西鉄グランドホテルで懇親会を中心として開催する運びと

なりました。支部長はおりませんが、昭和57～59年の福岡在住の卒業生を中心として執り行いました。元アナウンサーの金子富美さん（昭59）の司会で、開催の趣旨とご挨拶を中島敏樹代表幹事（昭57）よりいただき、引き続き山中國暉同窓会会長より、同窓会の近況などについてご報告がありました。白谷智宣先生（平5）の会計報告の後、参加者39名により今後の浦陵会開催について審議して、毎年開催する旨採択されました。

その後、有吉俊彦名誉教授の叙勲のお祝いとして、門

下生であります九州大学薬学部分子衛生学分野山田英之教授（昭52）より、7月の研究室でのお祝いの会のご紹介などをいただき、花束贈呈をして、浦陵会としてもお



祝いをさせていただきました。

懇親会は、松本康裕先輩（昭24）の乾杯から始まりました。宴の途中、若手から簡単な自己紹介と近況を報告しました。石黒先生、古川先生をはじめ多くの先輩・後輩方と2年ぶりに懇親を深めることができました。毎回、熊本支部からは、テニス部の先輩である山本喜一郎さん（院昭59）も駆けつけていただいております。今年3月卒業したばかりの浅原洋介さんも会の運営に協力いただきました。なにより、昭和59年卒の上村義子さん、金子さん、中島徳子さん、竹尾由美さん、中垣春美さん、そして飯塚からご参加頂いた原口桂子さんという強力なネットワークがあってこそこの浦陵会開催でした。

最後に古川先生の中締めのご挨拶で散会となりました。盛會に終わりなによりでした。



平成25年9月8日 於 西鉄グランドホテル

●● 大分支部 ●●

支部長 石橋 眞（昭49）

平成25年度長薬同窓会大分支部の新年会を兼ねた総会が平成25年1月26日（土）午後6時45分から、来賓として本部から平成24年6月2日（土）に別府市で開催された長薬同窓会定期総会において会長に選出された山中先生をお迎えして、大分市の大分センチュリーホテルで27名（会員170名）参加のもと開催されました。どの支部も参加率が悪いとのことですが、大分支部も例にもれず参加者が少なく多に寂しい気持ちです。あと10名ぐらい参加者が増えるといいのですが……。

まず、約35年間（？）事務局を担当し、2歳の娘さんがいる阿部幹事（還暦のおじさんが未だに担当）より会計監査、会員の異動等の報告があり、続いて永年支部活動にご尽力された故有永先生（昭24）及び故下瀬先生（昭33）への黙祷のあと、野尻支部長より「昨年の大分大会総会へ多くの方々に参加していただいたことへの感謝の気持ち」の挨拶がありました。

次に、山中会長から「大分支部のご協力により盛大な総会・懇親会が開催されたことに感謝します。」とのお言葉をいただきました。そして、最近どの支部も若い人の参加が少ないこと、同窓会は顔の見える同窓会として関心をもってもらい、学生に対しては「よろず相談所的な所として開放すること、平成25年度の本部定期総会が佐世保のハウステンボスで開催されるので、大分からも

一人でも多くの方々の参加をお願いすること、そして、今の若い人は巻頭言や薬学部校歌を知らない人が多いが、大分支部はどうでしょうか？等々のお話がありました。

ところで、大分支部は、長薬同窓会定期総会を大分県で開催後に支部長が交代するのが恒例となっているようです。（歴代の2～3人の支部長が自分勝手に思い込んでいるらしい……）。そういうことで、平成24年6月別府で開催された定期総会を受けて、野尻支部長の後釜として、しぶしぶ支部長を引き受けました。

大学卒業後、大塚製薬（株）徳島工場に入社し、医薬品の研究開発に取り組みました。その後大分県に入庁し、平成20年3月退職しまして、現在、医薬品卸売販売業（株式会社アステム）に勤務しています。

これから、次の大分県での定期総会開催まで支部長と考えると非常に気が重いのではありますが、阿部幹事の力を借りながら少しずつですが前に進みたいと思っていますところです。

そして、恒例の記念撮影の後、最後の薬専卒業生であり、我々の誇りである下村博士と同級生である長老西川大先輩（昭26）の乾杯のご発声で懇親会が始まり、ご出席の皆さんは大いに飲み、語り合い、宴が盛り上がったところで、卒業年次の若い順に近況報告を語りながら自己紹介が行われました。開局された方、病院（薬局）勤務の方、行政の方、卸勤務の方等々幅広い層の同窓が時の経つのも忘れ、昔話に華を咲かせ楽しいひと時を過ご

されたことと思います。今回は、参加者27名のうち平成卒業生が12名を占め若い人が多く、特に菓子野・小橋川夫婦、河村夫婦、山村夫婦の3組のご夫婦の出席があり、例年になく、盛り上がり、和やかな雰囲気の間窓会でした。



若松さんリードによる巻頭言

最後に、山中会長も心配されていた「巻頭言」や「薬学部校歌」を若松正人君（平1）にお願いし、野球部仕込の堂々たる声に聞き惚れながら、全員で校歌を楽しみながら、散会となりました。

来年は、もっと多くの方々の参加をお待ちしています。特にまだ、参加したことがない同窓生の方是非参加してください。同窓で学んだ先輩、後輩で語り合うこともまた楽しみです。

来年、会いましょう。



平成25年1月26日（土） 於 大分センチュリーホテル

●● 佐賀支部若楠会 ●●

藤平 優子（平11）

平成25年度の長薬同窓会佐賀支部若楠会総会および懇親会は、佐賀県が担当で9月15～16日に開催予定の九州

山口薬学大会の準備の都合などもあり、早めの3月3日に佐賀市の「グランデ はがくれ」で開催され、21名の先生方にお集まりいただきました。総会は長薬同窓会の山中会長の来賓挨拶に始まり、続いて議長に近藤雅也氏（昭61）を選出して議事に移り、その後、懇親会へと移りました。

私の主人がMRで転勤が多く、私は佐賀へ来て2年に

なりますが、佐賀は住みやすく穏やかな所だと感じています。そのような土地柄と同じく、若楠会の皆さんも温かく迎えて下さいました。当日は桃の節句にちなんだ料理を楽しみながら、日頃の薬剤師の業務の話に刺激を受けたり、学生時代の話に自分の頃の事を思い出し懐かしんだり、有意義な時間を過ごしました。

若楠会発展のため、今後とも皆さま方のご協力を、宜しくお願い致します。

出席者

山中 國暉（昭43）	福島 祐作（昭37）
江頭 圭子（昭38）	田中 博輝（昭39）
大坪 美穂（昭47）	大間 賢一（昭47）
池田 知子（昭49）	八谷 緑（昭50）
福田 博美（昭50）	藤戸 博（院昭52）
末安 正典（昭52）	末安 智子（昭52）
西依 健（院昭54）	大田寿美子（昭56）
浅原 洋子（昭59）	近藤 恵美（昭61）
近藤 雅也（昭61）	佛坂 浩（昭61）
中山 智美（平4）	藤平 優子（平11）
木寺 健司（平15）	



平成23年3月3日 於 グランデはがくれ

●● 熊本支部 ●●

幹事 松尾 富士男（昭59）

平成25年度の熊本支部例会は、9月7日（土曜日）午後7時から、熊本市内の坪井川沿いにある「アークホテル熊本城前」で開催いたしました。今年の参加者は15名で、例年並の参加者数でした。

開会に先立ち、一番ヶ瀬 尚先生（特）の急逝を悼み黙祷を捧げました。支部長の山本喜一郎さん（院昭55）からの開会のご挨拶に続き、同窓会本部から大学関係の近況報告をいただきました。例年大学の研究室からご来熊いただいておりますが、今年は病院薬剤師の立場で、NTT西日本長崎病院薬剤科 七種 均先生（昭56、長薬同窓会副会長）にご出席いただき、ユーモアあふれるプレゼンで楽しくお話を聞かせていただきました。

た。このあと、乾杯の音頭を岩下淑子さん（昭52）にお願いし、会食・歓談となりましたが、七種先生からは、さらにこの後も、薬専の歴史的なお話などを賜りました。

宴もたけなわで、ご出席の皆さんから個人ごとに近況報告をいただきました。毎年、一番盛り上がるのがこの時間で、今年も「今だから話せる」様な貴重なお話を含め約50分間聞き入らせていただきました。厳しい環境の中で薬局経営に奮闘されている方、お子さんが今年薬系大学にめでたく入学され安堵の一方で離れを経験された方々、今も毎年同窓会をされている学年の話題、薬局まで週1回ランニングで通勤され中学生時代の体重に戻された方、娘さんが漫画家を目指している方、薬剤師の仕事の楽しさを満喫されている方、ご主人にお子さんの世話をお願いして年に一度の同窓会を楽しみに来られた方、などなど。

支部事務局を承って14年目ですが、大学環境の変化と

それぞれの皆さんの人生の一部をこの例会の中で共有させていただけたようで、とても感慨深い一日となりました。

最後になりましたが、以下に今年の出席者を列挙させていただきます。

なお、例会当日ご事情でやむなく欠席された古海勝彦さん（昭61）は、後日事務局の私（松尾）と一緒にプチ同窓会で情報共有（笑）致しましたことを申し添えます。

出席者

平野 玲子（昭52）	岩下 淑子（昭52）
古川 真一（昭54）	山本喜一郎（院昭55）
秦野 正敏（昭56）	田中 久子（昭56）
木山 容子（昭57）	木山 雄一（昭59）
松尾富士男（昭59）	矢田 道代（昭60）
兒島 正樹（院昭62）	山内 秀樹（平2）
前田 健次（平5）	上仲 小玲（平6）
上村 裕子（平6）	（以上15名、敬称略）



平成25年9月7日 於 アークホテル熊本城前

●●長崎県北支部●●

支部長 相川 康博（昭48）

今年平成25年、当支部は大変多忙な年でした。6月の同窓会定期総会を当支部が担当したためです。

4月に入り準備会を開き、大まかな進行とアトラクションの内容について協議、5月の2回目の準備会では、当日の進行と各人の役割について最終確認を行い、6月8日の当日を迎えることになりました。

ラッキーなことに、当日午後に会場のホテルオークラに着いてみると、結婚式に使用する部屋が狭くて済むために、総会会場を中宴会場から大宴会場に料金はそのまま変更しましたとのホテル担当者からの報告、土産袋の準備も何とか間に合いそうとの報告を受け、あとは総会から懇親会まで、無事に皆さんに満足してもらって終

わることを祈るだけでした。

準備会委員が当日は運営委員として各々の役目を果たしていただきました。目標の100人には届かなかったものの、90余名の総会・懇親会参加を得ることができました。アトラクションが良かったとか、土産まで貰ってとか、満足して帰っていただけたようでした。私の耳に届かない不満ごともあったとは思いますが、何とか終えることができました。やっと大役を果たしてホッとするとともに、皆様に感謝申し上げます。

委員：松本功治（昭41）、島田志津枝（昭45）、田代佐夫子（院昭48）、榊原隆三（院昭50）、東 三郎（昭56）、東 文子（昭56）、荻野清子（昭62）、松本直樹（院平1）、松本玲子（平1）、井手指月（平2）、山口 拓（平8）、川尻宏輔（平10）、中村沙織（平16）、大神正次（平16）

さて、8月8日に委員の労をねぎらうとともに、総会の報告・反省のために準備会解散式を行いました。定期総会の決算で一番心配だった赤字は出さずに済んだこ

と、アトラクションの変面は非常に好評だったこと、懇親会場は段差があって隔離状態が生じたが、結果的には狭隘にならなかったこと、ひょんなことから急遽準備した土産袋が好評だったことなど、飲食を交えながら十分に反省しました。そして、今年の支部同窓会を開くかどうかを検討して、11月に開催することを決めました。

23日が祝日の土曜日で人が集まりやすいのではないかと、大学のホームカミングデーと重なったのですが、11月23日の18時から、いつもの佐世保セントラルホテルで今年の支部同窓会を開催しました。

来賓に長薬同窓会副会長の七種先生（昭56）に来ていただき、支部からは13名しか参加がなく例年より少ない人数でした。祝日の土曜日の日程設定が裏目に出たかもしれません。

七種副会長から祝辞をいただくとともに、私から支部

の会計報告と6月の同窓会定期総会の結果について報告した後、今上先生（昭25）の乾杯の発声で2時間飲み放題の宴会が開始しました。近年になくこじんまりした宴会でしたが、時間内に納まらないほど話が弾みました。係員に急かされ、最も若い井手先生（平2）の万歳三唱の音頭で閉会となりました。

出席者

大庭 義史（特）	今上 亨（昭25）
松田 雄光（昭25）	松尾 幸子（昭34）
林田 匡代（昭36）	松本 功治（昭41）
島田志津枝（昭45）	中島憲一郎（昭46）
田代佐夫子（院昭48）	相川 康博（昭48）
橋本 次男（昭50）	相葉 啓子（昭58）
井手 指月（平2）	



平成25年11月23日（土） 於 佐世保セントラルホテル

●● 長崎県央支部 ●●

支部長 中村 和子（昭44）

諫早市、大村市の会員で構成される県央支部の総会を、平成25年10月27日（日）前回と同じJR大村駅近くのお料理茶寮“きぶん”で開催いたしました。

大村での2回目の催しで、伊豆大島に甚大な被害を及ぼした大型台風26号の後でした。後続の台風の影響も心配されましたが、幸いにも秋晴れの良いお天気となりました。

今年の出席者は11名。いつも楽しみに出席して下さる

数名の方が急用で不参加となり、とても残念でした。しかし有り難いことに、前日に山口支部総会に出席された山中会長が、お疲れのところ、帰路に大村まで来てくださいました。

総会での会長挨拶の中では第1回最先端創薬科学シンポジウム「蛍光と創薬」が下村 脩博士ご臨席の元で開催され難病治療薬の開発が進んでいること、学生の就職状況、そして学生（会費前納済み）と同窓会との絆を強める為に白衣贈呈を検討してみてもどうかなどの話がありました。更に「長薬のお蔭で薬剤師の免許があってこの生活があると思います。都合の付くときは同窓会に出てほしい。母校《長薬》を応援する気持ちで。」とも。

懇親会は、大変お元気そうな山本 勲先生（昭30）に

乾杯の音頭をお願いしました。「こんくらいで こげん
よ料理の出るとね。大村はよかねえ。」との声もあり、
美味しいお料理とお酒で座も和みました。各自の近
況報告では70歳を過ぎて現役で仕事をなさっている
方、2、3年前までは頑張っていた方、パソコン
教室に通って殆ど何でもできるようになった方々、
そして職安に行き如何に免許が役に立っているか良く
分かったと実感された方等々。「来年はもっと賑やか
に、若い人の近況も聞きたいですね。元気で再会しま
しょう！」と皆さんを見送りました。

欠席の返信の中には「今は子育てに奮闘しています」

と。小さいお子さん連れで出席しても大丈夫な雰囲気を作
りたいと思いました。そして親御さんを介護中の方も
数名。先輩方には介護の経験の豊富な方もいて、出席し
て話をすると何か応援してもらえることもあるかと思いま
す。

支部の集まりは、若い世代の方にはあまり関心を持て
ないことでしょうか、平成卒業の方々の出席を期待でき
る支部もあるようです。同期会に無い何か、職場に無い
何か、世代を超えて心に残るものがあればと思います。
長葉の同窓という“縁”で、少しずつでも出席者が増え
ていくことを願っています。



平成25年10月27日 於 お料理茶寮「きぶん」

田中秀二（昭46）中村和子（昭44）西村ヒサコ（昭31）内田民子（昭44）坂本滋子（昭34）手塚晴美（昭53）藤原正晴（昭51）
倉石千鶴（昭33）山本勲（昭30）山中國暉（昭43）平山文俊（昭41）

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 濱田 哲也（昭54）

平成24年度の長崎支部ぐびろ会総会は、7月6日
（土）にセントヒル長崎にて開催されました。

恒例となっておりました学部先生による講演は、日
程が合わずに残念ながら開催できませんでしたが、30名
の同窓による活発な意見もあって有意義な総会が経験で
きましたことを嬉しく思います。

水野和美先生（平11）の司会で会次第にしたがい物故
会員への黙祷、校歌斉唱、会長挨拶、来賓挨拶と続き、
議長に秋吉隆治先生（平3）を選出し議事に入りました。
ここでは本部事業への協力ではありますが、長崎支
部ぐびろ会ならではの事業報告をご紹介します。

○原爆慰霊碑の清掃

ぐびろ会の名前の由縁にもなっております医学部ぐ
びろが丘の慰霊碑を清掃しました。学部学生の方々も
多く集まって汗だくで頑張りました。

○小野島校舎跡地記念碑の清掃

疎開先であった小野島には狭いながらも立派な記念
碑が建立されています。

○全学同窓会ホームカミングデーへの参加

全学の学生さんのパフォーマンスは感動ものです。
総会後の懇親会には17名の学部学生も参加して、明る
く華やかなひとときを過ごしました。学生の方々が卒業
後は各支部での同窓会に参加してくれることと思いま
す。

来年は当地で本部の総会が開催されます。長崎支部ぐ
びろ会は、全国の同窓の方々に来てよかったと思ってい
ただけますよう準備万端、心よりお待ちしております。

クラス会および近況だより

「小野島の思い出」

西川 恭夫（昭26）

本年9月28日催された「第1回最先端創薬科学シンポジウム」と同懇親会に出席し感銘を受けたことは、我々の時代とは本当にすべての事が驚異的に変わってしまった事でした。内容については、正直我々には一生懸命に聴いていても20～30%程度解ったかな？と思った程でした。そして又今の学生はいろいろな事が出来て幸せだろうな!! と思いました。もし叶うならもう一度生まれ変わって今のような設備で勉強すればどんなに面白く感じるだろうなと思われました。

帰宅して小野島時代の写真を探し出して昔を思い出して見ました。懐かしいものが少し出てきました。中に多分昭和25年頃の物と思いますが、熊本薬専との野球交換試合の写真がありました。懐かしい思い出ですがもうこの写真の中に見せる顔は数えるほどしか生存していません。私は後にこの中の一人の熊本出身者と同僚になり現在も大分でゴルフなど懇親を深めています。

小野島時代は食料難など不遇の時代でしたがそれなりに楽しいことも多かった様に思います。学園祭で当時まだ少なかったポマード・石鹸・サッカリン・ヅルチンなどを合成し「ぜんざい」等を作り、一般の方に販売したり、近所の池に居る「食用蛙」を取ってきて腹の足しにしたり、学校に遊びに来る赤犬を捕まえてフォルマリンをくわえさせて殺し皆で蛙同様栄養源にしたり、学園祭では女性達が宝塚の真似事を計画して男性陣も引き込まれ、厚化粧をさせられて舞台に立たされた等小さなエピソードは楽しいことがそれなりに沢山あったようです。

小野島校舎跡に記念碑を作って頂き何度か清掃に参加しましたが、今は殆んど昔の面影は無く淋しい思いしきりです。小野島在籍者も我々昭和26年卒が最後ですから生存者そのものが少なくなりつつあり、これも歴史の一齣でしか無いかと思って居ます。

熊本薬専との野球交換試合の記念写真を添えます。



熊薬と対外試合S25

エッセイ 3 点

服部 俊明（昭28）

ああ川端純四郎先生 25-8-8

今年も仙台七夕で、先生にお目に掛りたいと多くの人波と吹流しを掻き分けて、折鶴のいつもの所に出かけた。

しかしそこには先生のお姿はなかった。ノーモア広島
の折鶴の吹流しのある所定の所には前年もお目に掛かることは出来なかった。先生はバッハ研究の為にドイツにしばらく遊学されると聞いていたので、今年は念願になってお目に掛かり、土産話を楽しみに訪ねたものでした。

チョット気になったので先生は？ と折り鶴のメンバーにお尋ねしました。奥から先生の奥様が折り鶴を造りかけて出てこられて、「主人は去る5月23日16時50分胸部食道がんで亡くなりました」と、知らされました。（ネット検索で末期食道がん及び先生の業績と背景を知る）

まさに晴天の霹靂。何とお慰めしたら良いのか？
戸惑うばかりでした。先生との出会いは、約10年以上前に「近現代史を考える会」に出掛けて先生の講演を拝聴した事に始まります。先生は大学教授として、キリスト者として、日キ仙台北教会のオルガニストとして御活躍のほか、市民活動としては「憲法九条の会」の講師団の一人として全国的に講演をくり返し巡回しておられました。

惜しい人を亡くした、日本としても掛け替えのない人を亡くしたと感化を受けた研究会員の一人としてとても残念です。

特に先生の近現代史は幕末から今日ただ今までを詳細な資料を基に、色々な論評に対しても鋭い客観性を持って、実態を検証した御講演でした。毎月の先生の講演会は約50名が嬉々として聴講しておりました。質問に対しても懇切丁寧に答えておられました。特にサンフランシスコ条約の周辺等等。この講演会は熱が篋り全部で20回は続きました。思想的には完全に中道で真実一路でした。時の政権や経済状況に左右されず純粋な学問的な立場からのお話でした。だから私どもは次回の講演が待ち遠しかったのです。

また大地震や大津波それに東電の福島原発に就いても正論を提示されて再稼動に警告を発し、端的には国内全原発は廃炉にすべきだとの結論でした。その証拠にこれから2年半経とうと言うのに未だに対策は後手後手である。

仙台青葉荘教会ではキリストの真髓にまで触れられて歴史的、そして幅広い派閥抗争に宗教学的な立場からお話になりました。その外にご自分でのパイプオルガンの演奏も拝聴しました。先生は亘理で牧師の子として生ま

れ東北大の文学部の博士課程を出られた気鋭の研究者でした。論文や御著書も多く、バッハのコラール、マタイとヨハネ受難曲ではドイツ語の原文を暗誦されて新解釈を施し後進に灯火を点されました。

憲法九条の会では現在の日本国憲法は不磨の宝典で並の人間が作れば逆に今より悪くなると警告を発し牽制しきり！

超過密な社会活動で先生ご自身のガン治療が遅れたことが悔やまれる。先生の理想は志半ば、貴方の命に代えての愛国者としての遺訓は決して忘れません。安らかにお眠り下さい。

東日本大震災余話

この世でこんな楽園が有ったのか？ そこは天国にも勝るユートピア、夢の国であった。

出来ればもっと其処にずーっと留まりたかった。そこに、はーさん、はーさんと言う声で呼び戻されたのである。天国での逍遥のさなか呼び返されたのだ。安眠妨害も甚だしい。手術成功の知らせにも、ぶつくさ文句を言いながら生還して、ストレッチャーで病棟に運び出されたのである。

思えば3.11の大地震で家の各部屋の家財道具は散乱し、足の踏み場もない。台所の瀬戸物は大方大切なものは壊れ、ぐちゃぐちゃに成っており、重い電子レンジは台から飛ばされていた。洋間のピアノは倒れなかったが、置き台を飛び越え絨毯の上に飛ばされていた。棚の上の物はことごとく落下散乱していた。家内はいち早く道路に避難していたという。地震が治まり家に入ろうとしたら玄関の下駄箱が転倒していた。それで近所の高校生に頼んで倒れた下駄箱を起こして、散乱し尽くした家に入れたという。外出中だった私が帰宅出来たのは混乱と渋滞の為、午後五時頃であった。それから、がれき整理の為に、2、3日は掛った。電気も水道もガスもない電話も通じない。当に絶海の孤島である。懐中電灯とローソクの生活が始まった。

先ず、生活用水に苦勞した。幸いにしてトイレの流しの水は湯槽の水で急場を凌いだ。しかし、飲食用の水は台原の森林公園の給水場に長蛇の列が出来て、順番を待つのに約2時間を要した。最高は3時間待った人も居られたそうである。また順番を待って公衆電話が無料で全国どこでも通話できた。そこで親戚、知人、友人に安全を報告した。皆さん何方も我が事のように親身になって、お見舞いと支援物資の配送などご心配して頂いた。生協の食料品類は忽ち枯渇して、限られた物しかなくコーナーは縮小されていた。ここでも長蛇の列で限られたものが1、2点しか手に入らなかった。ガソリンも限

定的で長蛇の列、次の入荷を車内で一晩待つ人も居た。

一週間ほどしてやっとお見舞いの物資が親戚、友人、子供等から届いて、荷が捌けないとかで物流会社の配送センターに受け取りに行ったものである。

風呂にも苦労した。前日に整理券を購入して指定の時間に、30分の芋の子状入浴で、ハイ！次。と、成るのである。それでも有り難かったので何回も通った。

インフラの回復には地区によりバラツキがあったが、私の地区では約40日掛った。この間は被災難民である。難民と言っても当地区には津波が及ばない所だから、自分や身内が津波で攫われたり全財産が流された訳ではないので不幸中の幸いであった。しかし激甚災害の石巻、志津川、気仙沼ではそれに地盤沈下が加わった。更に東電福島原発地区の方には放射能汚染が加わり絆とは言えお慰めの言葉を知らない。

一ヶ月が経ったころ、私の体に異常を感じた。それは歳甲斐もなく、右下腹部にそけいヘルニア（脱腸）を発見した。2、3日模様を見たが好転の兆しはなかった。

早速最寄りの東北労災病院に診察をお願いした。運よく担当医は副院長の外科部長で有った。諸検査の結果私の思う通りの病名で、震災でストレスと過労から来ているという。そこで手術を勧められた。またその内容も説明された。

ところが、この震災で病院側も多大の震災を受けており、いまやっと軌道に乗りかけたところだと言う。それで先約が一杯溜っており、なんと40日ぐらい待つと言う。予約をするかと迫られた。こうなれば仕方がない、お待ちしますので宜しくお願いします。と、しか言いようがなかった。

その夕方家に帰りその旨妻にも話した。

そんな時に思いも寄らずその病院から電話があって、キャンセルの患者が出たので、良かったら貴方を受け容れたい。明日入院して異常がなければ明後日オペをしたいと言う。40日を覚悟していたので願ってもない話だと飛び上がって喜んだ。早速入院手続を済ませて、病棟患者の人に成った。ベッドは人間工学を取り入れたもので快適だった。

夕方執刀医や麻酔医や薬剤師が入れ替わり立ち代り問診に来た。特に麻酔医は名札が麻酔科部長という女性の医師だった。妻側の親戚に東北大学の麻酔科の女医が居るが現在どこの病院にいるか分からないが！と話を向けたら近況を詳しく教えてくれた。そんな話の中にも此の患者にはどんな麻酔を施したら良いかを模索中とも受け取られた。さすが一女を出て東北大学医学部を出た才媛だと思った。彼女は色々問診の上で明日はお任せ下さい。と、女麻酔科部長は自信たっぷりに言って退去されたのである。

翌日午後になって点滴の補液が打たれ、ストレッチャーに移されて麻酔の予備剤が打たれた。手術室に運ばれ更に麻酔剤が点滴に追加、混入された。一つ、二

つ、三つと数を数えろという。私は何時の間にか麻酔にかかって頭が朦朧となり深い眠りに落ちいった。やがて頭上に強烈な無影灯の光圧を感じたが後の事は全く分からない。

全ての状況は医者物のテレビに出てくる様な状況だと推測される。

今思えば計算しつくされ管理された理想的な麻酔経過を辿ったと思われる。浅からず深からず、術後の後遺症や違和感は全く無かったばかりか、あの状態で何時までも夢の国で眠っていたいとさえ思った程である。最高の麻酔と模範的手術を受けたことに深い感謝の念を捧げたい。有難うございました。後で病院の医師配置案内を見たら麻酔医は5人いて全員女医でその部長先生であった。名麻酔医と言うべきかも知れないと思った。

後で副院長から聞いた話では彼女こそ病院が誇る評判の名麻酔科部長だと知らされた。

今日あることを感謝するばかりである。

定義如来西方寺参り 25-9-30

仙台市では高齢者に敬老乗車券が交付されている。今までは5千円の自己負担で市内は全線無料の乗り放題であった。地下鉄と市営バス、宮交バスが何回でも利用できるものであった。そこで人により年間20万円ぐらい利用する人も居たそうである。

それでは不公平だと市側は考えたのか、今年10月1日から年間1万円の自己負担で上限10万円までの優待パス券に変更された。

それは良いとして、手持ちの9月末で余ったパス券は無効になるのである。私は車を利用するので、此の恩恵には余りあずかれない。そこで余った利用券で一度くらいは仙台で最も遠い秘境の定義山にお参りすることにした。不謹慎な事だが余ったパス券を少しでも消化したかったのである。

早速期限の9月30日早めに家を出て10時の仙台駅発→定義行きに乗る事にした。ところが思う事は皆さん同じと見えて瞬く間に長蛇の列となった。運良くバスに乗れたのは良いが私からが立ち席となった。運行の時間は約1時間半である。途中降りる人は居ないので、そのバスを見送って次の1時間後の11時発のバスに乗る事にして、次発のバスを待った。だから合計1時間半を始発の仙台駅前乗り場で立って待った訳である。

前後の待ち合わせのお客は、考える事は皆さん同じで余った利用券の消化である。超満員のバスの中で1時間半を立てバスに揺られるのは大変である。私は次発を待ったので座れて車窓に流れいく秋の風景を堪能できた。

ところが途中狭い大倉ダムの堰堤を通り、鉄組の細いトンネルの中で大型のJR観光バスと出遭ったのだ。狭い道路での大型バス同士のすれ違いは神業であり、運転

手泣かせの難所である。お互いに慎重にジリッ、ジリッ、バックミラーを確認しての超徐行である。当方の市営バスには傷は無かったがJ Rバスはバックミラーにバリンと破損事故が起こった。原因と責任分担調査の為車内で待たされる事約30分。

ともかく合計2時間掛けて目的の定義に到着した。神業の運転に何人かが拍手を送った。

定義では本堂と裏側の別院も参詣した。先ずは山門の両側に金剛力士像がありそこを襟を正して通った。

定義本山は、五穀豊穰、家内安全、交通安全、金運円満、良縁成就に御利益が有ると言う。先ずは手を洗い、口を漱いで神前に拍手を打ってお参りした。ローソクと線香の煙にも身体をさらしたことは勿論である。

別院と水子供養塔では一日一訓が掲示されていた。

24日 有難うと言える人に成りなさい。

25日 裸で生まれたのだ、何の不足があるのか。

26日 素直な心。

27日 人の長所を見つけよう。

28日 佛心とは大慈悲是なり。

29日 捉われない心。

30日 今からでも遅くない。

今日は30日、そうだ私は終活を急がなくては。

その昔源平合戦で安徳天皇を奉って壇ノ浦の戦で破れた平家の落ち武者が全国各地に遁走し身を隠した所の一つが此の定義だという。彼らは天皇の遺品を祠に納めて川で隔離しそこに天皇橋を設えて祭っている。

その隣には連理のケヤキが古めいて屹立していた。

なお、30年前に訪れた時には『がまの薬売り』が口上宜しく貝殻に詰めた軟膏を万能薬として売っていたのを思い出す。

さあーさあーお立会い！ 口上と出立ちと刀に迫力が

あった。曰く「ガマはガマでもそんじょそこのガマとは訳が違う。霊験あらたかな筑波山の山奥のガマである。此のガマを鏡の四角い箱に入れると、ガマは己の身の恐ろしさに驚いて、たらーり、たらーり、と脂汗を流す。此の油汗から三七が21日間を掛けて精製して造ったのが此の万能薬の軟膏である」。と、言って刀を取り出して切れ味を公衆の面前で試すのである。半紙を取り出して、半分半分に切り刻み最後はその紙を、紙吹雪として大衆に吹き散らすのである。その切れ味の良い刀で今度は自分の腕に切りつける。赤い血がじわりと浮かんた。すかさず此の軟膏を塗れば忽ち傷は元通りに治療が出来て平常に戻るのである。その外、頭痛、歯痛、カサ、イボ痔、のぼせ、風邪、腰痛、何でもござれである。これ程に利く薬だが、利かない病が四つあるという。①恋の病 ②浮気の虫 ③白髪 ④歯抜けだと言って大衆を虜にしていた。その時には確か薬が随分売れたことを思い出す。サクラが居たのかも知れない。

昼ごはんは名物の味噌焼きおにぎりとチャーシューメンを食べた。空腹だったのでとても美味かった。今回の土産売り場には相変わらずキウリとナスの漬物、油あげ饅頭、三角あげなどが人気の商品だった。観光客は前回の30年前とは随分減っているようだった。やはり不況の波はこんな所にも現れているかも。

帰りも同じで1時間並んで次のバスに乗り仙台に帰ることが出来た。片道1,110円自宅までが300円だから合計片道1,410円つまり合計2,820円であった。そこで期末余った利用券は400円！ 目的はほぼ達成した。

周囲の山河は青葉繁れる深山幽谷である。これならば後一ヶ月もすれば本堂と紅葉のコントラストが見事だと思った。是非来月は改めて紅葉狩に訪れたい。

第26回三朋会だより

郷野 美智子（昭30）

昭和30年大卒3回生は、今を去ること33年の昭和55年、河野信助先生を囲んでの第4回クラス会の時、会の名称を「三朋会」と命名しました。その後、5年毎、2年毎に開催して、平成9年以降は毎年開催する事になりました。第4回の際は40歳代後半の働き盛りで皆若々しい姿で写真に収まっています。関東、関西、九州、長崎と持ち回りででしたが、数年前から毎年長崎で開く事になりました。

さて、第26回三朋会は10月21日（月）から23日（水）まで、長崎の夜景が素晴らしい梅松鶴に集いました。ホテルの下方は竹林が広がっていて、朝食は亀の間でした。

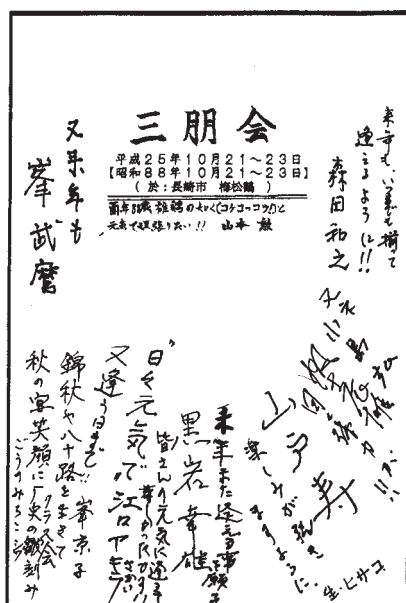


（第4回 三朋会記念 昭和55年11月22日）

松竹梅、鶴亀とお目出度いものづくしです。

伊豆大島に大災害を齎した台風26号と数日おいて、巨大アベック台風27、28号が襲った
丁度その間の僅か3日間、天候に恵まれて開催出来たのは本当にラッキーでした。

卒業時42名居た仲間も卒後58年、今では16名が他界されました。宴が始まる前に16名のお名前を読み上げて在りし日を偲び黙祷を捧げました。今年初めて全員が80歳を超え、13名も集まる事が出来たのは本当に嬉しい限りです。乾杯の後は60年前にタイムスリップして懇親の時を過ごし、校歌や故郷などを皆で合唱し、別室に移って



遅く迄賑やかに過ごしました。

2日目は自由行動で、それぞれ昔懐かしい処を訪れたり、長崎出身の方はお墓参りに行かれたりしましたが、3日目に予定していた稲佐山登山を急遽変更（台風接近で翌日は強風が予測されたので）して7名で登山しました。真っ青に澄み切った秋空、ビルが林立してすっかり都会化した長崎の街並み、鶴の港が羽ばたきそうに煌めき、遠くは雲仙、阿蘇、翻って見ると五島灘、上五島の島々が微かに見えた様な気がしました。橘湾、大村湾、天草灘と天草の島々とまさに絶景でした。数人で歴史博物館を訪れ、中島川沿いを散策し、眼鏡橋を渡って中通り、観光通り、浜の町を経て思案橋まで歩きました。本当に懐かしい思い出が詰まった長崎の街でした。初日の宴会は、卓袱料理でしたが、2日目は会席料理で対面式に席を近づけ、其々の来し方等を語り合い、美味しい料理を頂きながら賑やかに過ごし、翌朝長崎駅頭で解散しました。

現在病気療養中の方、介護に携わって居られる方々、どうぞ一日も早く回復なさいます様にと祈っています。出席された皆様もご自愛下さって来年もまた笑顔でお会い出来ます様に!!

錦秋や 八十路を生きて クラス会

秋の宴 笑顔に歴史の 皺きざみ

秋うらら 旧友と渡りぬ 眼鏡橋 みち子

出席者（敬称略、順不同）山戸 寿、馬詰久子、郷野 美智子、黒岩夫人、酒井裕子、帆士辰雄、峯 京子、江口 皐、森田和之、峯 武磨、小島 弘、黒岩幸雄、山本 勲、以上13名



三朋会 平成25年10月22日 於 梅松鶴

4 回生同期会だより

江本 篤(昭31)

一度しか 無い人生が もう後期

1956年(昭和31年)卒業の4回生同期会は、卒業以来57年間途切れることなく連綿と続いている。当初は4年毎だった会も淋しいと言うことで、数年を経ずして隔年となる。しかしそれから間もなく「先が無い!」との全員の総意に基づいて毎年行うことになり、爾来20数年間しぶとく続いている。だが当初は全く外交的辞令だった「先が無い」も昨今では実感として味わっている。

桜吹雪の中、44名が初々しく揃って卒業したのは遥か彼方のこととなり、現在では30人と淋しくなった。しかし、動ける人は全員元気に集いお互いの健康を、そして長寿を寿いでいる。

東京・帝国ホテル、横浜・インターコンチネンタルホテル、箱根・山のホテル、六甲有馬・兆楽、博多・シーホーク、長崎・花月等々と偉くもないのに、その上金もないのに、それなりの格好をつけて場所を選んだりした往時だったが、最近ではすっかり足が地に着き人並みに落ち着いてきた。

最初の頃は物見遊山が中心で、名所旧跡や観光地巡りに2泊3日をかけて回っていたが、最近では年のせいか趣向もすっかり変わり、静かなところでゆっくりと懇親しながら語り合うことが多くなったし好まれるようだ。勿論足腰のせいもあるのかな?

4回生は大まかに、関東、関西、九州に分かれ住んでいて、この3ヶ所が持ち回りで会場を設営しているのだが、これだけ長く続くとしかも毎年のこととて、この狭い日本のこと、次第に場所設定に苦労している様子が伺える。その辺りを察知してただ一人中国地方に住んでいる私が名乗りを上げ、全員の信認を受ける。10年前にも岩国に設営し、翌日は安芸の宮島を案内した経験があるので、十分一人で取り仕切ることにはできる。悩んだのは何処でやるかであるが、事前調査などで何回か尋ねねばならないこと等を思い、今住んでいる山口県内と決める。秋芳洞や観光地・萩なども考えたが、ゆっくり寛げる所を第一義に考え長門市湯元の「大谷山荘」を選ぶ。ホテルはいざ知らず旅館としては県内最右翼だと自負している。

5月12日同期会当日定刻14時、新山口駅に参加希望者20名が集まる。男女丁度半々の10名ずつだが、卒業時の半数であり淋しい思いである。山口市在住の河野信助先生(昭17)、河田和子(昭32)さんに見送られて出発する。道中は臨時添乗員による山口県の政治や地勢そして観光地等の説明があり、平生は通過地点である山口県が可成り理解でき退屈することなく目的地に到着する。

和服姿の綺麗なお姐さん方に迎えられた大谷山荘はい

ろんな機能を備えた温泉であり身も心も芯から休まるのであるが、それにも増して従業員の口には出さぬが、あらゆるところで「おもてなし」の気配りが伺えて本当に気持ちが良いし心から休養になる。



一風呂浴びすっかり寛いだところで特別室の懇親会会場に集合。気の利いた乾杯の音頭ももどかしく、早々に賑やかな宴会となる。年を取ると残念ながら将来の夢よりも過去の思い出話が中心になるが盛り上がる。薬屋のせいでもあるまいが、不思議と服薬の話や病気の話は少ない。健康なせいとか或いはカラ元気を出しているのかもしれない。併し、他所のどのような会でも味わえない本当に腹藏のない話に赤ら顔を更に赤くしながら熱中している。この様な談笑が・雰囲気は暖かく心に残り、ニンマリしながら平生のストレスを解消し、平穏な生活が保てる源の一つになっているのかも知れない。楽しい懇親会の余韻を引きずって、クワルテットの生演奏会場へと場所を移す。酔いでボーとなっている頭にもやはり生演奏は素晴らしく、心地よく響く。

翌13日は、折角山口くんまりまで来てもらったのだから、せめて山口県の片鱗でも見て貰おうと萩の一部を案内することにする。併し人並みには歩きづらい人もいるし、時間も十分でないという事情で「松陰神社」と「東光寺」に絞る。吉田松陰は明治維新の礎を築いた群雄を育てた偉人とあって、ウイークデーにも拘らず参詣者が引きも切らず流石だ。わずか27歳の生涯に良くもこれだけの偉業を成しえたものだと感心する。続いてすぐ近くに在る東光寺に参る。ここは毛利藩歴代の藩主の墓地のある寺だが、広大な敷地に建てられている雄大な墓は見応えがある。ただ墓石に辿り着くまでの距離たるや……。歩け歩けの強行軍である。途中に数段の石の階段があり、横向きになり一段ずつ辛そうに上がる女性に、往時には考えられない奴がそっと手を貸している風景を見て長い年月を感じる。萩にはこの他にまだ世界最小の死火山、レトロな古色蒼然たる武家屋敷、一年中温度の変わらない風洞、大筒を造ったと言われる反射炉等々多くの名所旧跡があるのだがこれらは次の機会に譲ることとして、今年の同期会は以上で終了した。



通り一遍だった別れの「それは又ネ！」の挨拶も年々願いを込めた心からの言葉になってきたように感ずる。来年も一人も欠けることなく、このメンバーが揃うことを念じながら新山口駅で皆を見送った。

人間年を取ると時の経つのが早くなったように感じるし、自らの来し方を顧みても忽ちのうちに過ぎ去った歲月だったように思う。「光陰矢の如し」は情緒的な認識だと思っていたが、或いは現実そのものではあるまいか。この様に思うと、これからの同期会が更に貴重なものに思えてくる。

老年と 嘆くな成れぬ 人もいる



長業31年卒同窓会 傘寿の祝 平成25年5月12日 於 大谷山荘

三葉会 ～脇田温泉と飯塚市探訪～ （ゴム風船が結んだ絆の話）

田崎 三郎（昭34）

毎年開催している同期会も50周年を機に中断しようという動きもありましたが、止めるのは惜しいということで54周年目の会を福岡県宮若市の脇田温泉の楠水閣で平成25.10.19～20に開催しました。足腰の衰えを理由に常連者の欠席者が例年になく多く、少し淋しい会となりました。

宿に早く着いたので、5種類の浴槽を備えた露天風呂にゆったり浸かり、気分も爽快になった所で宴会となりました。酒豪だった人が禁酒したり、加齢による酒量減なども



有り、酒代が減ってきたのも我が会の傾向のようです。

今回の特色のひとつは、脇田温泉の近くにお住まいの後輩の安河内一弘氏（昭52）が出席されたことです。手土産を沢山持参して頂き、ジャンケンで良い物から配布していく方式で会を盛り上げて頂きました。

幹事を務めて頂いた安永ハルミさんには美しい衣装に着替えてダンスを披露して頂きました。

この「一年間の出来事」などを各自紹介し合いましたが、例年のようにボケ防止・健康管理のため、囲碁・数独解き・スイミング・ウォーキング・ダンス・テニス、高尚なところでは長崎奉行所時代の古文書の翻刻に熱意を燃やしている人も居られました。

私の「一年間の出来事」の報告は、学年理事の松尾幸子さんから同窓会報への記事にするよう命じられてしま

い、この報告書を書かされる羽目になって、原稿を書いている次第です。（〔後記〕します。）

2日目は貸切バスで飯塚市を見物して廻りました。まず、筑豊の炭坑王、伊藤伝右衛門が若き柳原白蓮を妻として迎え、約10年間過ごした豪邸をガイドさんの説明を受けながら見物しました。玄関に入ってすぐの応接間にはアール・ヌーボー調のタイルを貼ったマントルピースがあり、当時九州では初めて作られたと思われる水洗トイレ、工夫を凝らした天井の造作、隠元禅師の掛け軸、東郷平八郎の「有一誠」の書があり、2階の白連の居室

から見下ろした石造りの太鼓橋を備えた華麗な回遊式庭園に魅了されました。それに加えて世界記憶遺産に登録された筑豊の炭坑労働記録画家・山本作兵衛の原画も数点展示されていて、余録も頂いた気分になりました。

次に千鳥屋本家を見学し、昔懐かしい千鳥饅頭とチロリアンを皆さんお土産に購入し、嘉穂劇場は公演中のため内部見物が出来ず外観だけを車窓から眺め、飯塚市を後にしました。

博多駅で昼食後、解散となりましたが、来年は北島氏のお世話で白浜温泉で開催することになりました。



平成25年10月19日（土） 於 脇田温泉 楠水閣

〔後記「私の一年間の出来事」〕

ささやかな事ではありますが、私にとって生涯の記憶に残ることがありました。

友人の結婚式に出席したことです。77才の私が友人の結婚式に出席するというと、初婚の人？再婚？厚かましい！ などと言われましたが、純然たる初婚の友人の結婚式に出席したのです。

それは、20年前に遡りますが、宇部市の小学校2年生の「男の子」が学校で揚げたゴム風船を東方約80km離れた上関町（鳩子の海）の海上で、釣りから帰る途中で私が拾った事に始まります。風船には「手紙を下さい」との黄色のビラが付いていたので、すぐに手紙を出しました。数日後、本人とお母様から、「男の子」が学校から大喜びして帰って来た様子が眼に見えるような礼状が届き、私も嬉しくなり黄色のビラも大切に保管することにしました。

それから、「男の子」が小学生の頃には、写真入りの

手紙を頂いたりしての文通が始まりました。しかし、その後は年賀状のみの交流になりました。「男の子」が慶応大から東大法科大学院に進み、司法試験に合格し、弁護士に成ったことを知り、立派に成長されたことを見届けた気分になったことと、私も老化が進み始めたので、平成24年の年賀状で、今後は欠礼する旨を申し出ました。

ところが、25年に年賀状が来て25年9月の結婚式への案内が書かれていました。式は同じ山口県内の宇部市だろうとたかをくくっていたところ、式は東京でしかも「パレスホテル東京」で大臣クラスのご来賓が二人も居られる豪華メンバーで、出席者も知性溢れる方々ばかりでした。開演後、間もなくしてご両親がわざわざ私の席まで来られ、お母様は眼に涙を浮かべて私の出席を喜んで下さいました。その瞬間、出席して良かったと思いました。

大きな画面による新郎新婦の生い立ちから、二人が結ばれるに至った経過紹介の後、友人によるカラオケなどは無く、新郎の友人の梅若〇〇〇様の能による高砂が演

じられました。終宴近くになって進行係の女性から、「新郎が小学校2年生の時に飛ばした風船を100キロ離れた所で拾われ以後文通をしてこられた人とこの席で初めて逢われます。」との紹介があり、新郎新婦がひな壇から降りて私の席へ向かうよう指示されました。初めての対面で肩をたたきあって喜び合いました。「折角だか

らひと言を」と勧められ、見事に成長された姿を見れた感激を申し述べ、記念品を皆様の前で頂戴しました。

感動に上気しながら、近畿地方に近づきつつある台風18号（次の日京都の嵐山も浸水した）を気にしながら下りの最終の新幹線に滑り込み帰路につきました。

感動の余韻が今でも続いています。

笹渕敬良君を悼む

中尾 哲朗（昭35）

2013年4月28日、笹渕君の告別式に出席、悲しい別れとなりました。

平成12年に脳梗塞で倒れ、以来13年間懸命にリハビリに挑戦されましたが本年春先、風邪をこじらせ肺炎となり力つきました（平25年4月25日没）。

学生時代は特に親しくなかったけど、なぜか遠くからやさしく見守ってくれたように思います。蛮からで背が高く、一見こわおもてだがメガネの奥はやさしく笑っていました。

笹渕君とは、昭和45年（卒後10年）夜10時ごろ、銀座八丁目の路上で偶然出会い、その後新橋駅近くで再会し、よく会うねと驚き付き合うようになりました。会う

といつも説教で「飲んでばかりいないで、奥さんを大事にせんば!」、いつも私は聞き役に「君こそこの時間なにしてるの」とは言えませんでした。

その後、彼なじみの居酒屋（八丁堀）で飲むようになり、仕事の悩み、学生時代の思い出、高校時代は久留米にいて医者を目指していたなど話す姿が懐かしく思い出されます。2000年（平12）東京お台場での同期会で会ったのが最後となりました。

銀座、新橋を歩くと、笹渕君にばったり会うような気がしてなりません。何でも話せる友が居なくなり、さびしい限りです。

合掌



写真の左端が笹渕君です

36 ばってん会 in 福岡

自見 紀子 (昭36)

今夏は歴史的な高温続きの夏、疲れもピークに達し、もう限界と思いはじめた9月末にやっと気温が下がりはじめ、2013年の「36長崎ばってん会」を10月10日に控えベストコンディションで開催地福岡に皆様を迎えられると思っていた矢先、台風24号が北を向けて駆け上がり、2～3日前より天気予報と向き合うことになりました。幸い前日には台風は日本海を駆け抜けてくれました。

当日、天気を気にしつつ、集合地博多駅「つばめカフェ」で担当幹事3人が落ち合い、クラス会のスタートとなりました。参加者とは博多駅タクシー乗り場で合流、9人のコンパクトな旅のはじまりとなりました。

最初は「博多湾ランチクルーズ」です。‘ベイスайдプレス博多’から乗船、船は思ったより大きく、ゆったりしており、お天気もまあまあで展望もよく、参加者は久々の再会を乾杯で喜びあいました。船は台風一過で少し波があり、揺れもありましたが、それが却って心地よく、皆でランチしながらこの日の再会を再び喜びました。

ふと窓の外を見ると見慣れた風景が目にとびこんできました。ヤフオクドック、福岡タワー、マリノアシティ、少し方向が変わると能古島がぱっかりみえてきて、船上から同窓生と風景とランチを楽しんだひと時でした。船上にあがり、博多湾をグルリ見わたしそのうちポチポチ降り出した雨つぶを受けながら、博多埠頭へと帰路につきました。

博多駅より宿泊地「ザ・ルイガンス」へホテルバスで出発、午後3時30分に無事到着しました。「ザ・ルイガンス」は海のそばにあり、とても眺めのよい素敵なホテルでした。予定では海の中道公園など散策してコスモスを楽しむことになっていましたが、雨のためとりやめ、それぞれお部屋からの素敵な景色など眺めて疲れをとることにしました。

夕方6時、宴会は12名。メニューは和懐石で、2時間の予定です。少し遅れて到着した長崎在住栗屋さんの顔を見て、乾杯の運びとなりました。近況報告になり話題は親の介護、後期高齢者医療の仲間入りのこと、加齢による体調の変化など話は尽きませんでした。大学入学から今日までの半世紀、会えばいつも変わらぬ気持ちで語り合える同志は本当に貴重であり、宝物であるつくづく思いました。

2時間の宴会後、幹事の一部屋に場所を変え二次会を楽しみました。

二日目、いよいよ、柳川・川下りのはじまりです。

7時30分、雨がしつこく降るのが気になりましたが、出発です。

台風による雨により、水上を走る船の旅がどうなることかと内心ヒヤヒヤしながら西鉄天神駅に向かいました。

天神駅改札口で「柳川特盛切符」を9人分、購入、柳川へ出発です。9時30分の特急に乗るべく後一人とここで合流する人を、時間ぎりぎりまで待ちましたが、とうとう再会できずに出発、結局8人でしたが、車中45分間、ゆっくりしゃべりながら柳川に向かいました。

柳川駅で下車し、川下りが始まりました。心配した雨は上がり、貸し切りの船に乗船、船旅のはじまりです。

船は手漕ぎの船でゆらりゆらりと心地よくゆれて、雨上がりの涼しい風が吹き、川の両側の木々や花々が美しく殊に芙蓉の花、萩の花、かんなの花と生き生きとしてきれいでした、ただ10数個ある水門をくぐり抜ける度に、台風で水量がまし、天井との差が少なくなり通過するたびに頭をひたすら下げ、身体をおりまげ低く、低くして通り抜けました。

川の両側の木々に加え、水中公園、吸水場、赤れんがのみそ工場など昔をしのぶ所が処々にありひと時の楽しい船旅でした。

お昼は立花邸内の「お花」の「お花特盛セット」で柳川名物うなぎのせいろ蒸し、どじょうの柳川鍋、むつごろうの甘露煮などをいただき旅の疲れを癒しました。



コース最終章、皆様おなか一杯、ややお疲れ気味の様子、立花氏庭園を眺めつつ西洋館をさっとみて、最後に柳川の有名人、北原白秋の生家に行き、明治、大正、昭和を生き、日本近代文学に偉大な足跡を残した白秋の一生をしのび、柳川駅を立ち、西鉄天神駅に戻りました。

ホテル「ソラリア西鉄」で別れを惜しみつつ解散となりました。

参加してくださった皆様が福岡を楽しんで旅して下さった事を心より感謝し、嬉しく思いました。

追記：次回「36ばってん会」は2年毎とし、次回は関東在住の人たちの担当にて開催してもらうことになりました。その間各地で、小さなミニクラス会もあってよいのではとの事です。

最後に終始労を惜しまず、企画全体をコーディネートして、この回を成功に導いてくださいました、武田成子様に感謝し、この報告といたします。



平成25年10月10日 於 ホテル ザ・ルイガンズ

75歳の所感

栗屋 順子（昭36）

ついにと言おうか、とうとうと言おうか、3/4世紀を生きてしまった。これまで年を気にせず生きてきたけれど、75歳は特別だ。何故なら、保険証やその他年齢を記載している書類を見た人は必ず「お元気ですね」と優しい笑顔で見つめてくれるのである。この視線に抵抗したくなる。私は昨日の私と同じだ、去年とさほど変わらないのだと聞かれもしないのに言いたくなる。今後医療受給者としての私のポジションは「後期高齢者」である。健康保険料はこれまでの倍額自分で支払わなければならない、75歳になったらろくなことはないのである。

私は長命の家系であるらしく、父は94歳で逝き、母は105歳にして存命である。老健施設で手厚い看護を受け、逢いに行く度に将来の自分の姿を垣間見る気がして複雑である。どこことって悪いところもなく、最近はずっと眠って過ごし、私を認識してくれることは稀である。母を見ながら立場を置き換えたらどうだろうと思う。つまり私の子供達は、年老いて眠り続ける私を前にどんな選択をするのだろう。私には兄弟がいないので母のことは私の一存にかかっているが、係累が多いとそれぞれの都合で意見が分かれる。果たして我が子は寝たきりの親を前にどうするだろうと考えると安閑と寝てもいられない。

今年の文芸春秋12月号に「うらやましい死に方」という

特集があった。有名人ではない普通の人々の見事な逝き方が綴られている。如何に生きるかも難しいことであるが、如何に死ぬかを果たして自分で選択できるものであろうか。「生き方」以上に難しい「逝き方」について、もうそろそろ考えておかねばならない年齢なのかもしれない。

多田富雄著「寡黙なる巨人」の中に氏が旅先で突如重症の脳梗塞に見舞われたことが書かれている。ある朝目覚めると理不尽にも自分が身動きも出来ず、口をきくことすら出来ない状態に陥っていることに気づく。耐え難い苦痛の中で、自ら死を選ぶこともできない絶望の中で自分の生き方を選択し、使える五感を総動員して生きる努力をする。その時に生まれた不屈の魂を自分の中の「巨人」と呼び慈しみ育てて生きる力としていく、その姿に感動し沢山の力を与えられた。

私はもともとネアカでひたすら前向きで、たまには立ち止まったり、振り返ってみたりするもんだと注意されたりするのであるが、3/4世紀生きてきた今ここで少し緩やかなひと時を過ごしてみるのもいいという心境になっている。生来の突進型なので難しい課題ではあるが自分の中に違うパーソナリティーを育てて、残りの人生を豊かにしたい。でもやはり私としては駆け抜けていきたいと思うのである。

昭和 37 年卒 卒後 51 年クラス会

福島 祐作（昭37）

昨年5月卒後50周年記念クラス会を吉田研次君が精力的に動いてくれて雲仙、島原、諫早の要所をまわることが出来ました。当時の薬学部1学年は定員40名と少なく、それだけに仲間意識が強く、ここ数年毎年クラス会を開いてきました。全員が古希は3～4年前に過ぎていますが旅行、家庭菜園、ゴルフ等々幅広い趣味を持ち、一方では薬剤師の資格を活かして調剤業務、管理薬剤師、病院薬剤部等での活躍や講演会の講師を務める等いまだに力を発揮しております。

本年は昨年のクラス会から丁度1年目の5月21日～22日、同じく吉田、渡久地、福島がお世話することになり、いずれも筑後川ぞいの原鶴温泉と水郷柳川を旅しました。筑後川は以前は一夜川と称された荒れ川で水害は過去数回起こしたようですが、現在は治水事業が進み穏やかな流れで、柳川から有明海に注いでいます。振り返ってみますと今夏の晴天猛暑続き、少雨で取水制限を考えますと改めて水のありがたさ、河川の大切さを痛感いたしました。

旅の初めに戻りますが、最初の集合場所は「新鳥栖駅」にしました。余談ですが当駅は従来の鳥栖駅から西に5～6分の所に位置し2011年（平成23年3月）九州新幹線鹿児島ルートの中津～熊本間の全線開通と合わせて開業した駅で在来線（長崎本線）の駅を併設しています。今回の参加者は、小野 仁（千葉市）土井雅子（旧姓：喜瀬、島原市）平 季久（中津市）高井啓二（奈良市）中西洋吾（さいたま市）野内栄二（中津市）野村 修（長崎市）早崎 忠信（島原市）林 徳隆（奈良市）馬場純好（神戸市）寺尾桂子（旧姓：秀阪、下関市）渡久地泰明（福岡市）吉田研次（諫早市）福島祐作（佐賀市）と各地から集合しました。今回都合でこれなかった人もいますが近い将来きっと笑顔で駆けつけてくれるでしょう。

移動はバスで行いホテルに着く前に「吉井の白壁の町並み」を見学しました。ここは江戸時代には有馬藩の城下町久留米と天領日田を結ぶ豊後街道の宿場町として栄えたとのことで、今も百数十件の白壁土蔵の建物が残り、人々の暮らしがずっと引き継がれているような感じでした。吉井町を後にして筑後川に面した原鶴温泉に到着。宿は由緒あるホテルパーレンス小野屋で11階建て、殆どどの部屋が和洋折衷で、バリアフリーの素晴らしい宿でした。当ホテルの特徴の一つは、内風呂・露天風呂とも洗い場が畳になっていたことです。畳といっても居住用とは異なる通気性の優れた特殊な畳で、定期的に外に運び出し十分に乾燥させているので衛生面も心配なしとのことでした。石造りの洗い場との比較では滑りにくく子供やお年寄りも安心して入浴できて、かつ温もりが感じられるお風呂でした。温泉は少しぬるっとした肌に

やさしいお湯でした。1年前にお互い会っているとはいえ近況や昔話に花を咲かせました。夕食宴会の冒頭、乾杯の音頭をとった中西兄が「人間70歳を過ぎたら教養と教育が必要である。」一瞬難しい話になったな！と襟を正したのですがすぐ後の説明で教養とは「今日、用事がある。」教育とは「今日、行くところがある。」と言ってくれたので皆ほっとすると同時に大笑いしました。我々のクラスはほぼ全員クリア出来ていると考えます。宴会が終わった頃、筑後川の岸辺でドーンと花火が上がりましたのでなんだろうか？と思っていたら偶然にも今日5月20日が鮎の解禁日で、予定外の筑後川川開き花火大会にもめぐり合うことが出来ました。

翌21日は貸し切りバスで柳川へ移動しました。柳川は、城下町（藩主立花家）で町のいたるところに網目状の掘割があり、水辺に影を落とすしだれ柳の緑がとてきれいで静かな町の風情を残しています。早速、「どんこ舟」に乗ってお堀めぐりに向かいました。「どんこ舟」の由来ですが：ハゼくらいの大きさで、黒褐色をした川に棲んでいる魚に似ているところから名付けられたと言われています。70分かけての川下りは初夏の好天に恵まれ、岸辺の緑のあいだに点在する赤煉瓦の並蔵や白いなまこ壁は独特の風情を醸し出していました。船頭さんの竿さばきは見事なもので狭い橋の下をぶつかることなく潜り抜けたり地元の歌を披露されたりして楽しい川下りでした。川下りの写真を添付しましたのでご覧ください。



沖端乗下舟場で舟を降り、近くの白秋生家を訪ねました。北原白秋は20世紀、日本の近代文学に偉大な足跡を残した作家です。柳川で生まれ、多感な時をこの美しい町で暮らした白秋。ふるさとの軟らかで温かで穏やかな気持ちがそのまま白秋の作品に移っているように感じます。私たちが幼少のころから幾度となく学校の授業で歌ったり、聴いたらすぐにわかる「雨ふり」「ゆりかごのうた」「砂山」「からたちの花」「待ちぼうけ」等々白秋が作詞した童謡の多さに驚きました。北原白秋は

「水の構図」の中で「水郷柳河こそは、我が生まれの里である。この水の柳河こそは、我が詩歌の母体である。この水の構図この地相にして、はじめて我が体は生じ、我が風は成った。」と記しています。白秋生家に別れを告げ、昼食は柳川に来たらまず欠かせない「うなぎ料理」。なかでも柳川は「うなぎのせいろ蒸し」の発祥の地と言われています。早速あまりにも有名な「若松屋」

にはいりました。勿論注文したのはウナギのせいろ蒸し。蒸されたウナギとご飯アツアツでとてもまろやかで美味しく忘れられない味でした。そのあとバスで新幹線筑後船小屋駅に到着、お互い来年の長崎での再会を約束し解散しました。今年も楽しいクラス会の旅になりました。



野内、林、野村、中西、小野、早崎
寺尾
土井、福島、高井、馬場、吉田、平、渡久地

USA グランドサークル巡り

S37卒業生有志

グランドサークル（ラスベガス→グランドキャニオン→モニュメントバレー→レークパウエル→ブライスカニオン→ザイオン）巡りは好天に恵まれ、この上ない喜びと、素晴らしい大地の壮大さを実感させてくれた。

米国在住（カンザス市）の本田君から、昨年5月の同期会（50周年雲仙）で、アメリカに来てもらえれば案内したいとの申し出があり、4人と2組の夫婦の8人が参加することになった。ホテルの予約、レンタカーの手配を始め、後期高齢者前後に相応しい旅行計画をまとめ推進し、自ら運転も買って出てくれるなど、参加者は感謝の極みであった。

9月23日、4:55pmに関空から8人が揃って飛び立ち、約11時間の後、サンフランシスコ空港に着陸した（9月23日10:30am）。心配した国内線への乗り継ぎも、まあ、恙無く通過し、ラスベガス空港に無事到着した（2:56pm）。本田君の出迎えをうけ、レンタカーに

乗り込みラスベガスのダウンタウン地区にある GOLDENN NUGGET HOTEL にチェックインした。ホテルの1Fはギャンブルマシーンで埋め尽くされているのにビックリしたが、どのホテルも同様であった。世界中から富裕層が集まり、この世の楽園を想わせるが、超肥満体が多いのにも驚かされた。ビッグな夕食に圧倒されて、ホテルに戻り、空の旅の疲れと、明日からのドライブに備え、早めに床に就いた（10:30pm）。

9月24日、各自で、朝食を済ませ、8時半には、グランドキャニオン（約480km）に向けて出発した。運転手兼ガイドとして清水さん（50才代とのことだが若さを保っており、島根県出身で自信を持って米国生活をエンジョイしているようで、今、日本人は、中国・韓国人に比べ高い評価であることを強調していた。）が紹介され、心強い味方を得た感があった。古きよき時代を偲ばせるルート66（かつての大陸横断道路）を経由し、1時

前には、ウィリアムズ（国道40からグランドキャニオン South Rimへの分岐点）で昼食を摂った。ポリウム満点で、手つかずのポテトチップスをタッパーに入れて持ち帰りをしたものの食べる機会はなかった。5時半頃にはグランドキャニオンSouth RimのVillageに到着し、今夜の宿Maswik Lodge（国立公園内）に荷物を置き、夕日観賞のために、急ぎ満員のShuttle Busにのり、Hopi pointで夕暮れ間近いCanyonを覗き込んだ（5:50pm）。深さ1.6km, 幅29km, 東西の距離約446km（アリゾナ州北部に位置し、コロラド高原がコロラド川の数百万年の浸食で削り出した）の世界で最も壮大な渓谷が眼下にあった。徐々に日が沈み、夕空を焦がしながら日は落ちて行った（6:30pm）。夕食はVisitor Centerでcafeteria方式であったが、手順がなかなか理解できず食事にありつくのに時間が掛かった。また、一括支払いにしようとして難渋した。どこの国も公務員は融通が利かないのは共通のようだ。

9月25日、5時過ぎには起き、精一杯の厚着をして（5℃）Mather pointに出かけ（5時半頃）、昇る日に照らされて美しく彩を変えていく大渓谷に感動した（～6:30am）。この凄さ・美しさは実際にいった者だけが体感できるものだろう。Visitor Centerで軽食を済ませ、ツサヤンのヘリポートに向かった（10時半着）。先ず体重測定をされ、巨大な連中の狭間に我々軽量者はほぼ2人づつに振り分けられたようだ。ほとんどがヘリコプターは初体験であり、緊張の中、やがてCanyonの上空に差し掛かり、20億年の歴史が刻まれた大自然が創り上げた造形美、その雄大な渓谷に息を呑んだ。中には、若い美人の操縦士に当たり、言葉を交わし、安心して楽しんだ仲間もいた。一方では、歩行もおぼつかない老夫婦が係員の適切な援助で、この美しい景色を見る事ができる社会の仕組みに感動もした。

ツサヤンで昼食を摂り、Desert view point（再現された先住民の見張り塔がある）に寄りながら、モニュメント・バレーに向かった（約287km北上）。赤色の原野（ロッキー山脈からきた鉄分による）にはいり、夕暮れ迫る岩肌の中に彫り込まれた様なTHE VIEW HOTEL（ユタ州）に到着した（6:15pm）。建物は新しく、コンパクトではあるが寝室も含めて都市部のホテル並の心地よさであった。夕・朝食もここで摂ったが、ここナバホ自治区の人々の素朴で控え目な振る舞いに、おもてなしの精神の原点を垣間見たようで素直な爽やかさが残った。

深夜2時頃、ガラス窓から差し込む星空の気配に誘われてテラスに出ると、満天の空に見たこともない様なオリオン座が輝いていた。

9月26日、6時前には起き出し、メサ（テーブル形の台地）やビュート（さらに侵食が進んだもの）のバックからの日の出に夢中でシャッターを切った。朝食後、7時半には赤い大地に踏み出し、ナバホ族の運転手兼ガイドが運転する大型のジープに乗り、オフロードの凸凹道

を走り、いろいろな形のメサやビュートが点在する谷を巡った。広大な谷間にあるいくつものビューポイントは少年の頃に夢中になった西部劇のシーンを思い起こさせた。ジョン・フォード・ビューポイントの大きな砂丘の上にデンと座った巨大なメサは映画そのものであった。



Monument Valley

モニュメントバレーは、ネイティブアメリカン最大の部族であるナバホ族が白人との長い戦いと「ロングウォーク」などの迫害に耐えて勝ち得た居留自治区であり、精悍な顔付きのガイドが、この地を神聖な場所として崇めているのが、言葉使いや態度の端々に感じられた。「日本人は大好きで、我々の祖先は日本人だ」と言い、小太鼓を打ちながら、哀愁あふれる声で彼らの歌を披露してくれた。最後に巨大な岩壁に向かって発した彼のインディアンのかっぴは谷間にこだまして響き、余韻は静寂さと彼らの過去の悲しみを我々の胸に沁み込ませるものであった（8:30am）。

やや西よりに進み、給油、昼食、土産探しなどをしながら（正午頃）、アッパー・アンテロープ・キャニオンに向かった。ナバホ族の居留地でガッチリとした大柄のナバホ女性の運転するジープで砂ボコリと砂嵐の中、凸凹道を激しく揺られながらアンテコープ入り口に辿り着いた（2:30pm）。狭そうに見えた赤い岩の割れ目に入ると、砂岩がラセン状に侵食された洞窟のような空間で、岩の割れ目から光が差し込み、幻想的な光景が展開し、光が生み出す自然の芸術が次々に現われ、感動の極みであった。かのナバホ女性は我々のデジカメやスマホを自由自在に操って、次々にその光の芸術を撮影してくれるなど大サービス振りであった（3:00pm）。

赤い砂漠を後にして、明日クルーズするレイクパウエルとそれを出現させたグレンキャニオン・ダム（高さ216m, 幅475m, 建設1956～1964）を一望し、遊覧船発着所（ユタ州？）を見学して、ペイジ市（アリゾナ州）にはいり、BEST WESTERN PLUS ホテルにチェックインした（5:00pm）。ペイジの街で夕食のレストランを物色してから、グレンキャニオン・ダムの下流にある、ホースシューベントに向かった。覗き込むと、垂直

に切り立ち馬蹄形に湾曲した断崖がそそり立っており、強風で砂塵が吹きつける中、転落の恐怖を感じながらも必死でシャッターを押した(5:50pm)。ホテルに一度戻ってから、夕刻、先に物色しておいたタイ風カフェに行き、ワインなどで大いに盛り上がり、さらには学生時代の写真が披露され、賑わいは頂点に達した。(9:30pm頃まで)。

9月27日、ホテルを8時半には出発し、レイクパウエル湖のクルーズが始まった(9:00am)。相変わずの快晴で、上甲板で見渡す湖面はコバルトブルーに透き通り、底知れぬ深さを物語っていた。湖の長さは約300km、支流の峡谷は入り江となり、湖岸線は3100kmに渡り、満水となるのに17年もかかったといわれる。湖岸の風景、奇岩の数々、高い岸壁の赤褐色と純白のコントラスト、なかでもナバホキャニオンの龍が躍動するタペストリーなど自然の造形に感動しどうしであった(0:20pm)。

昼食をページで摂り、一路ブライスカanyon(243km)に向けて北上した。車窓からは灌木をまじえた緑の草原、農耕地、民家、木々の間に白い岩山が遠望された。山肌が色づき切り立った奇岩と松などのコントラストを楽しんでいるうちに、柱状の岩の林立する風景になった。道路の舗装の色が景観を配慮して灰色から赤紫色に替えられているザイオン国立公園内の道路に入っていた。燃え立つような赤い柱が林立するレッドキャニオン、ひときわ目立つクリーム色のマス目模様を刻んだチャッカーボードメサが現れた。View pointでの撮影を楽しみながらブライスカanyon国立公園へと入って行った(4:00pm)。Bryce Canyonはユタ州南西部位置し、キャニオンというより、むしろ巨大な円形劇場の景観を呈し、風、水、氷による堆積岩の浸食により形成されたフードゥーとよばれる尖塔状の岩が林立し、赤、赤紫色、朱色、青緑色、白のコントラストで我々を魅了した。あたかも始皇帝の兵馬俑の群像を観るようでもあった。フードゥーが美しく見えるのは赤い太陽に照らされる時刻と言われ、Sunset pointを探して回っている内に



Bryce Canyon

日没を迎えてしまった(6:00pm)。明朝の日の出については、ここは海拔2,400m~2,700m(Grand Canyon South Rim; 2,100m)で相当の冷え込みが予測されることもあり、諦めることにし、Bryce Veiw Lodgeに入った(7:30pm)。

9月28日、早朝Bryce Canyonを出発して、間もなく簡単な朝食を摂った。チェカーボードメサに見送られながら、ザイオン国立公園を通過し(9:00am)、進路を西方にとり、セントジョージに到着した。ロブスターは初めてと言う人も珍しそうに昼食を楽しんだ(1:00pm)。それからは、一路ラスベガスへ(Bryce Canyon→Las Vegas; 404km)戻り、ラスベガスのストリップ地区にあるMonte Carlo ホテルにチェックインした(3:45pm)。ホテル間を移動するトラムに乗り、夕食後、ホテルBELLAGIO内の劇場で、acrobat show-Oを観るために好位置の予約席に就いた(8:45pm)。水上acrobat showで、オリンピック選手の集団かと思わせる演技の凄さに息を呑んだ。円形のプールが瞬時に現れたり消えたりする舞台装置にも目を奪われた(11:00pm)。不夜城のように益々賑わいを増す街中を抜けて、ホテルに戻った(0:00)。



Las Vegas

9月29日、一日ゆったりとラスベガス・ストリップ地区の探索であった。ラスベガスは砂漠のオアシスがフーバーダムの建設基地となり、戦後マフィヤが支配するカジノの街としてダウンタウン地区が拡大していった。ストリップ地区は、1960年後半から当局の取締りが厳しくなり、経営権が合法的経営者に移り、1980年代の末頃から、巨大テーマホテルブームが起こった(世界の12大ホテルの内11軒がここ)。どのホテルも1階はカジノで賑わっているが、一つ一つがテーマパークとなっており、エジプトがテーマのホテルにはピラミッド・スフィンクスが、パリにはエッフェル塔が立ち、シーザーズパレスのローマの宮殿と室内装飾、倒れそうな斜塔ビル、ベネチアの建物内の空と運河とゴンドラ、ベラジオの水が空中で踊る噴水ダンスと、どのテーマホテルにも度肝を抜かれた。さらに、美術館、野菜とガーデン、巨大ショッピングモールでの買い物と一日が一瞬のごとく過ぎてし

まった。夕暮れのFremont Streetはネオンの洪水で巨大電光スクリーンには美女のストリップショーが映し出されていた。カジノ抜きでもこれほど楽しさに夢中にさせてくれる街は他にはないのではなかろうか！ やや興奮気味で、最後の夜をすごすMonte Carlo ホテルに戻った

(8:30pm)。

9月30日、5時前には起床。ラスベガス空港で本田君に感謝して別れ、帰国の途に就いた 完
参加者：有村浩子、中西洋吾夫妻、中山厚子、野村修、寺尾桂子夫妻、本田 功、高井啓二（纏め）

卒後 50 年を迎えて

戸川 和夫（昭38）

我々昭和38年卒業生は今年で50年の節目の年を迎えました。皆さんのご希望により思い出の長崎で祝賀会を10月26日におもてなしの心で準備させていただきました。台風27号の接近で無事開催できるか、皆さん集まっていたか大変心配しましたが、幸いにも台風は進路をかえ天候は回復しました。参加予定の皆さんも全員（城さんを除く17名）参加していただきました。

50年の間に残念ながら3名の級友（森本（永吉）、古賀、宮崎）を失いましたが、いまだ現役として仕事を続けられている方、趣味で人生を楽しまれている方など元気な姿を見せてくれました。

思い出話の尽きない一次会に続いて二次会もカラオケで大変盛り上がりしました。

今年の会報には参加いただいた方々の在学中、卒後50年、クラス会などの記憶に残る思い出をコメントしていただきましたので、ご紹介します。（敬称略）

青木 50年経った今でも20代。

梶村 大学の4年間何を勉強したのか思い出せなく、遊んだことしか思い出せなくて。よく薬局を営んでいるなと感心しています。

井口 卒後50周年に集える幸せを感じています。長崎で卒業し長崎で50周年を祝えることは良いことです。おじいちゃん、おばあちゃんになっても、なつかしい顔を見ることで、昔を思い出し若返った感じがします。同期会はいいものですね。

岡 今回、同窓会に出席して痛感したことがあります。卒後50年にして、お元気な方はあくまでもお元気で老いを感じさせないことです。

小隅 卒業後50年、あっという間に過ぎたのに、同級生と会うとその瞬間をなつかしく思います。これからの残された日々は、どのくらいか想像できませんが、皆が元気で次回に集まれることをせつに願っています。

左利 50年の年月の早さを痛感した。長崎市の変化を痛感した。仲間の変化を痛感した。4年間の長崎を忘れることができない。長崎最高!!

高橋 長崎を離れて経過すると、その良さがわかる。薬学部的主客は卒後50年も女性かな。

井川 今夕の皆様の元気な姿を心にとめ、今後の生活に活かし、楽しい毎日を送りたいと思います。

小波蔵 長崎で同期会が催されるたびに出席しているけど、いつも入学当時を思い出す。いつまでも同期生って宝物です。長崎はなつかしい青春そのものです。あの頃とすっかり長崎は変わったけど、同期生と集うと気持ちが若返ります。

土田 卒後50年、久しぶりの長崎。長崎空港から列車を使ってみました。諫早駅で何と「ななつ星 in 九州」に出会いました。諫早から長崎までルートが変わっていました。浦上駅の前に長〜いトンネルができていますね。

柴田 長崎は来るたびに懐かしいです。学生時代、食堂のうどんが15円、ちゃんぽんが45円という話が出て、覚えていなかったのびっくりしました。いつも皆の元気な顔を見て、とても嬉しかったです。

戸川 卒業後も長崎で暮らして50年、長崎の街は変わりましたが、同期生は変わっていませんでした。これからも変わらずクラス会を続けていきましよう。

山本 何よりの思い出は、入学の年に稲佐山でスキーをしたことです。渡辺君とその後の思い出づくりもありました。

渡部 長崎大学薬学部卒50年を期して、本日記念祝賀会が開催され17名の出席者を数え、50年前の各教室での出来事や人とのつながりなどが話題となり、誠に50年の時の流れの早さと思いの濃さを味わったものです。残り多分わずかでしょうが幸せでありたいと願っています。

記憶に残った長崎の思い出、学生時代の思い出をたくさん寄せていただきありがとうございました。皆さん楽しんでクラス会を終え帰途につかれたことと思い、幹事一同ほっとしています。

次回のクラス会は2年後に広島で開催することに決まりました。また元気な姿でお会いできるよう健康維持に気を配り、楽しみにお待ちください。（写真は小倉君の編集です）



平成25年10月26日 於 ホテルニュー長崎

卒後 50 年 同期会開催（予定）のお知らせ

松村 祐子（昭40）

家族性の高コレステロール血症でアトルバスタチンを服むように言われてると姉から電話があった。「いつまでもは生きていたくないから（薬は）もういい。」といったら、「死ぬまでは元気でいた方がよい」と医者からいわれたという。お互いに似てない姉妹だけど、そこだけは似てるんだと思った。思えば母が50で死んだから、母の年を過ぎてからは、“おまけ”のような気で生きている。

つとめ先の若い人がやめた。これからどうするのかしら？と心配になった。が、置いていかれたような気もする。大学に勤めていたせいで、一緒に居た人（の人生）には何か責任を感じる。企業には若者を教育する義務はないのだろうか？今、若い人はとても理解できない人が多い。常識が違うという感じ。

小学校の歯医者さんが「歯みがきの指導に行ったら、授業中に走り回ったり奇声を上げたりでびっくりした。」と言われた。学校保健会でも子供さんより親御さんを指導した方がいいと思う時がある。（そして、そのお母さん達はわたしの子供達でもある。）

若くない人にも常識が違う人がいる。妹が腰の手術をして付き添った時、（わたしの）血圧がひどく高くなった。心配になって、姑の13回忌に集まった時、主人に少し家事を手伝うように言ってほしいと義姉に頼んだ。すると「仕事をだしにしなさんな」としかられた。義妹は「兄ちゃんは虚弱児だったから休まないといけない」と

遠慮がちに言った。その時「ああ、兄弟とはいいいものだ。」と納得した。たしかに若い時はよく「箸も持ってやろうか？」と言ったものだった。

平成25年の九山大会で佐賀に行ってきた。合間に佐賀城と大隈重信記念館を観た。明治維新の原動力となった藩だと思った。

平成27年は長崎大学薬学部を昭和40年3月に卒業して50年になりますので、卒後50年同期会を開こうと思っています。

開催日時：平成27年5月28日（木）or 5月21日（木）

場 所：稲佐山観光ホテル

場所内容：5月28日 18:00～21:00 宴会

21:00～ 部屋での懇談

5月29日 9:00～9:30 稲佐山山頂観光

10:00～11:00 長薬同窓会館・
下村記念館

11:30～ 出島

12:30～ 新地中華街

13:40～ 解散

江の島での同期会が東日本大震災で中止に成り、現在体調を崩している人、介護で苦勞している人など多く、何人出席してくれるか心配です。

部屋での懇談時に、皆さんの腹の中を出してもらいた

いと思います。

ホテルには今年（25年）中に連絡してみます。料理は卓袱料理、予算は2万円位。

以上が江藤さんが立ててくださった計画です。

なにぶん長崎には松村と国分さんしかいないのでどれだけのことができるのか心配です。今のところは案の段階ですが、卒後50年同期会は長崎で開催します。

平成25年10月23日

昭和 42 年卒業 今年の同期会を山口市で開催

高松 薫（昭42）

日 時：平成25年10月18日（金） 18:00 ～ 20:30

場 所：山口市湯田温泉 割烹ヒサゴ

会 費：1万円（宿泊は、各自が決め、各自払い）

世話人：神田 尚，神代良彦，高松 薫，高宮（梶原）道子

出席者：集まった老若男女12名

当日の思い出（特記すべきこと）：

予約を取った時は13名であったが、いつも出席するはずの井上くんが喉頭癌の放射線療法のため欠席となった。井上くんは、出席できない詫びのメッセージと福砂屋のカステラを会場に送ってくれた。会の終わりに全員で分けて食べたが美味しかった。世話人の一人でもある高宮（梶原）道子さんは、101才の母親の介護と調剤薬局の勤務を犠牲にして会場に駆けつけてくれた。会が賑やかになり、梶原さんが挨拶の中で、「夫の高宮が未だ生きているようだ」と話されたが、本人もタイムスリップし、若々しく見えた。夜、9時近くに会が終わると、宿泊なしで直ぐ下関に帰られた。その後、神田 尚くんが保有していた学生時代のスナップ写真の拡大コピーを沢山見て、懐かしい昭和町の話となり盛り上がった。12名全員、皆、時間を忘れ終了予定時刻を超過しても会は続いた。話が終わらないので、神代くんの世話で有志のみ、近くのスナックに出かけた。卒業が1年遅れた村上くんも参加してくれ、同期の喜びをともに分かち合った。渡辺 照くんは、夫婦で参加してくれ、会を盛り上げてくれた。一番遠距離は、同期で一人教授になった谷

（近藤）覚くんが埼玉県の北の方から出てきてくれた。一時、目が見えなくなった藤本くんも元気な姿を見せてくれた。流石、「アステラス」だ。幹事の神代良彦くんらの提案で、来年の同期会の開催場所は、「幹事はとにかく、九州の国東半島に行こう」ということになった。要するに誰を代表世話人とするということなく、「全員が力を合わせ、ネコの手も借りて楽しい絆を末長くつくっていこう」という試みである。



ところで、樋口くん（ペンネーム香取 淳）は、第3作目を執筆中らしい。その他の人たちも皆頑張っているようだった。

42年卒業の皆様へ。「来年は是非、国東半島での同期会にご出席ください。」

*この原稿は、不自由なお体にもかかわらず、同期会に出席してくれた高松くんに書いていただきました。ありがとうございました。（井上一頭）



平成25年10月18日 於 山口市湯田温泉 割烹ヒサゴ

初秋の雲仙に集う

伊藤 充代（昭45）

今まで大活躍された方が大勢いますのに、私のような者に同窓会の報告書を書くようにとの依頼、卒業以来何も同窓会のお手伝いをしてこなかったので、反省の意味も込めてつたない文を書きました。

山の木々も少し色づいた雲仙に、10月19日同伴者も含め22名集まりました。おいしい料理をいただきながら、学生時代の出席番号順に着席し、近況を報告しました。

調剤薬局を経営しながら薬剤師会の要職を務められた方、医院を御夫妻中心に盛りたてている方、製薬企業で世界を飛びまわりながら活躍された方、大学で教鞭をとり若い学生さんを育てている方、又研究に没頭された方、家庭をしっかりと支えられた方、それぞれに熱っぽく語って下さいました。退職された方の中には、ゴルフ、そば打ち、語学ボランティア、又は学生時代音楽をやっていた方は、音楽を再開したり、人生を有意義にすごしていました。皆あの長崎の学生時代の頑張りがあったからこそ今までやってこれたと、口々に語っていたのがとても印象的でした。

男性陣は、頭脳を酷使しすぎたせいかちょっと頭の方が涼やかになっていました。一方女性陣は、子育てに、家事に、仕事に忙しかったせいか学生時代の体重をキープしていました。

最近アメリカでは、オバマ大統領がすべての国民が保険に入れるようなシステムを作ろうと頑張っています。（オバマケア）

古い話ですが、1979年から81年の頃、子供を連れてアメリカにいた時の話です。

日本のように病気をしてもすぐに医院にかかる事が出来ません。（救急の場合は別ですが）まず家庭医を決めて登録してもらわないといけません。子供が熱が出た時等、親の気持としてはすぐ受診したいのですが、まず家庭医に電話をします。症状を告げるとドクターより指示

があります。例えば4～5時間後に様子や体温を報告、又は手持ちの薬を服用させて容態を電話する。そして受診の必要があれば予約をしてはじめて診察していただけます。ドクターはとっても親しみやすく、子供達には机の引出しからペロペロキャンデーを取り出して下さいましたが。

又、ある手術をした時の事です。医療費は退院時に本人が全額支払い（口座引き落とし）、保険でカバー出来る分が後から返って来るというシステムです。1～2か月後に自分で保険会社に請求すると保険でカバー分が返ってきます。手続きが面倒で大変でした。私達は大学の団体保険に入れ、80パーセントカバー出来ました。富裕層はいくつもの保険に入り全額カバー出来ましたが、貧困層は保険に入れなくて、重症になってはじめて受診するといった有様でした。アメリカの医療費は、日本に比べて高額なので、処方せんを持って薬価の安いカナダやメキシコで薬を購入するという話も聞きました。日本の皆保険制度はとっても有難いものだと思つづく思いました。ずっと続く事を願っています。

私は今まで三十数年間、薬局で患者さんに「お大事に」と言い続けてきました。最近は医療機関にかかり「お大事に」と言われる事も多くなりました。今後は医療費を適切に使わせていただいて、若い人達からは「団塊の世代は！」困ったものだと言われない様、足、腰、脳を鍛え健康に気をつけたいと思います。そして人生をソフトランディングしたいと思っています。

次回は、2年後広島宮島の宮島で開催と決まりました。多くの方々と再会を楽しみにしております。

最後になりましたが幹事の轟木さん、中村さん、お忙しい中お世話ありがとうございました。楽しかったです。心より感謝しています。



平成25年10月19日 於 雲仙

私の履歴の中の同窓生

荒木 一範（昭46）

初めて投稿致します。

花（華？）の昭和46年の学卒組で（紹介する時は、いつも自らこのように言っています）、還暦もとうに過ぎ、懐かしく過去のことを振り返ることができる齢になりました。

薬学部卒業後は製薬会社に入社し、自ら望んだ訳でもありませんが、医薬品開発の入口の仕事－研究所での前臨床研究－から臨床開発、さらには、厚労省（当時の厚生省）への製造承認の申請業務や薬価の申請業務などの出口の仕事まで経験することができました。当時の感覚として、研究畑育ちの小生にとって臨床開発への異動は青天霹靂のことであり、かなりショックでした。でも、次第にエキサイティングな仕事をしていると実感できるようになりました。まず、治験薬の各臨床ステージアップ時の業務－前相のまとめとその結果に基づいた次ステップの臨床試験の戦略と立案－、必要時はこれに関する治験相談、次に検証試験の二重盲験比較試験のキー・オープン結果での喜びと挫折、厚労省への製造承認申請後、規制当局からの指示事項に関するキャッチボール時の厳しさとそれをクリアした後の承認取得時の安堵感と喜び、さらには、薬価取得に関する当局との制限時間内での折衝などなどが代表的な例です。その他にも、治験薬の開発業務とは関係なく、臨床医といろいろお話しする機会があり、たいへんいい経験になりました。例えば、研究所時代に開発を目指していた医薬品のプロファイルと臨床医が求めているそれとは、必ずしもマッチしないということに気づかされました。研究者としては、どうしても理想に近い医薬品像を求めがちになっていました。臨床医が補完して欲しいと思っているポイントは、ある領域では副作用がより少ないものを、また他の領域では、より効力の強いものを、あるいは、より半減期が長く服用回数が少ないものを、また、併用時に問題となる薬物相互作用が少ないものなどなどでした。このように、現場の臨床医が求めるものは、より現実的なもので、さらにそれらが領域ごとに異なるということを学びました。結局、臨床医からのこれらの情報を前臨床研究にフィードバックすることはできませんでしたが……。

昨今、我々の現役の頃とは異なり、医薬品開発において、業務分担制あるいはアウト・ソーシングなどがあり、医薬品開発の一連の流れにおいて、いろいろな業務を、通して経験する場が少なくなっているように感じます。しかしながら、製薬企業で働いている後輩の若い方々には、自ら進んで未経験の業務に取り組み、医薬品開発に関する視点を広げる努力をされることを勧めたいと思います。

その後、私が入職した会社は、グローバル会社へ吸収合併され、その新しい会社では、プロジェクト・マネジメント業務を経験しました。グローバルな医薬品開発における本国と本邦のプロジェクトチームの関係、あるいは徹底したコスト削減とスケジュール管理などを学びました。グローバル会社では当然のことですが、英語で会議がなされるため、語学の研修も業務と並行してやらなければなりませんでした。3年間は何とか勤めることができましたが、50歳を超え、ビジネス英語を使いこなせるようになるのは至難のことで、結局、早めに退職しました。その後、約1年間のブランクの後、ドラッグストアで、医薬品を通じて直接患者さんと接することができた最後の医療従事者である薬剤師の仕事にチャレンジしました。今から、思えば、もう少し早く薬剤師の仕事をやっていればよかったと感じています。小生が勤めたドラッグストアのコンセプトは「町のかかりつけ薬局」でした。調剤したお薬だけでなく、一般薬を介して、患者さんやお客さんから少しずつ信頼されるようになり、いろいろなことの相談相手になった時などには、「薬剤師をやっていてよかったなあ」とほんとうに嬉しく思い、思わずカウンターの陰で小さくガッツポーズをしたものでした。ここまでになるには、随分と時間がかかりましたが……。

過去のことを振り返る時、楽しかったことよりも、辛かった、しんどかったことの方を鮮明に憶えています。そんな時、よく相談したのが学生時代の友人たちです。やはり、同じような業務に携わっており、同じような経験をしているので、そのコメント、示唆は的確で大いに参考になり、難局を打開したことも何回かありました。彼らも、今は第二の人生を送っています。今でも年に2回だけゴルフを名目（私の場合は、ゴルフよりも飲むことにウェイトを置いています）に会い、近況を楽しく語らう同窓生もいます。みんなロマンス・グレーで、カッコよく齢を重ねています。

今年になり、両親も老齢になったため、親元と一緒に暮らそうとの思いで、3月で薬剤師の仕事を辞し、長崎に戻って参りました。最初の頃は、実家でいろいろな家の仕事をやっていましたが、そのうち、朝起きた折、「今日は何をしようかなあ」と思う羽目に！ 時間を持て余し、「飲み会やろうよ」と同窓生に頼み込み、幹事のお骨折りで、長崎近郊の同窓生でミニ同窓会が開かれました。16名集まりました。小生自身がみんなに会ったのは、もう10年以上前の同窓会になります。同窓会に出るといつも思いますが、10年以上のブランクを感じることなく、まるで昨日会ったような感じで話すことができ、少なからず驚きです。これって一体何なのでしょう

ね。精神的に時に振れ幅が大きいこともあります。充実した、最も濃い青春の一時期を共有した、古の縁みたいなものではないでしょうか？みんな楽しそうに近況を語ったり、昔話に花が咲いたり、ほんとうに同窓会というのは時間が経つのが速く、あっという間にお開きになります。みんなと分れるのがもったいなく、「この会、毎月やろうよ」と提案したら、みんな少し引き気味でしたけど。小生が驚いたのは、外観もさることながら、みんなの仕事に対する情熱が少しも衰えず、現役で頑張っていることでした。「仕事は続けね。紹介してもよかよ。具体的に勤務の条件ば考えとかんね。」と言ってくれ、2～3日後には、早速、具体的な仕事の紹介がありました。ほんとうに頭が下がります。みんなの情熱、元氣さ

が刺激になった小生は、現在、最初で最後の仕事として、病院薬剤師にチャレンジしています。

我々と同世代の人の中には、団塊の世代の真っただ中で、中学校（あるいはその前かも知れません）、高等学校時代、それから大学入試を経て社会生活でも、ずっーと競争の世界を生き抜いてきたと振り返る人もいます。が、この花（華？）の昭和46年組は、小生にとって競争相手というより、dearest 友人、仲間、恩人、（精神面での）兄貴あるいは姉貴、懐かしい人などとの形容がぴったりです。ほんとうに大好きです。みんな、いつまでも健康に留意し、（恐らく来年に開かれると思う）同窓会で元氣な顔を見せて下さい。ありがとう。

47 年卒（43 年入学）同窓会～再びの長崎～

西村 敬一（昭47）

昭和47年の卒業からすでに40年の歳月が過ぎ、大学での生活も昔の懐かしい思い出となりましたが、その学生生活を過ごした長崎の地で10月19日に再びの同窓会となりました。

世界新3大夜景（最近認定されました）を楽しめるように稲佐山の稲佐山観光ホテルで開催、昔の思い出と、現在の長崎を交差させながら同窓生との交歓を満喫しました。

昨年大分の長薬同窓会定期総会と同時に学年の同窓会を開き、次は是非長崎でとの要望から長崎で開催することとなり1月に長崎のメンバーが集合、希望を集約するためまずはアンケートを行うこととしました。その結果、出席する可能性がある人が40人となるのかなと思うような回答結果でした。

親戚の結婚式出席、介護のため、肉親の手術の立ち会い等いろいろな障害があり結果的には29名の参加となりました。

当日は長大訪問の参加希望者13名が同窓会館前に15時集合、同窓会事務局の武次さんに休みにもかかわらず対応していただき感謝しました。

皆が驚いたのが薬学部に模擬薬局が建っていたことでした。よく考えると当たり前のことですが、私たちの大学時代は調剤より実験が主体の大学でした。また、誰かが「ここに卓球台があって卓球をしていたのに」（今はないね）と2階の渡り廊下のところで声を出しましたが、薬学部の図書館、薬学部のテニスコート等も無くなっており時代の流れを感じました。私たちが入学した1年生のころは昭和町に旧校舎があり新旧2つの校舎を見ることができました。実際に学ぶ2年生からは、現在の校舎が完成したばかりの時、新しい校舎で学びました。武次さんのお陰でなつかしいが少しずつ変わってい

く薬学部を見ることができましたが、今後は大学病院の敷地への移転の話もあるとのこと、まだまだ、変わっていくようです。

長大訪問が終わると次は稲佐山観光ホテルでの同窓会。私たちの同級生はすでに9人が亡くなっており、最初に、若くして亡くなった同窓生への黙とうを行いました。その後、長崎を代表して猪平君のあいさつと乾杯で開始しました。途中、それぞれの近況報告がありましたが、終わりに近づくと報告も段々と熱がこもってききましたが、限られた時間なので、伝えられるのは、ほんの一部ではないかと思われま

す。会もそろそろ終わりかなと思う時間を見計らって、松本君がパワーポイントで写真映写。「あ！これ誰」、「あ！これ誰」と若い時の顔も考えないと思ひ出せなくなっていました。入学当初の1年生の始め頃の学園祭での、学生百年史の仮装行列の写真に始まり、各教室ごとの写真、個別グループの写真等を皆が見ましたが時間オーバーで懐かしい写真も途中で終了しました。



稲佐山山頂

私たちの同窓生で元気がある仲間が多いのが大阪・京都・神戸グループ。次の同窓会は神戸で開催と言うことで、震災当時も神戸で生活していた山田君が次回同窓会の開催のあいさつを行い宴会の部を終了しました。

私たちの同窓生は、日頃の精進がいいのか、雨との天気予報だったのが、朝だけの雨で終わり、心配していましたが、稲佐山山頂から長崎の夜景を楽しむことができました。山頂へは全員でマイクロバスに乗車し、夜の稲佐山展望台へ。世界新3大夜景は何と美しいことか、それに思い出が加わり長崎の夜の絶景に見とれていました。美しい夜景を楽しめた山頂も約束の時間となり下山。2次会は稲佐山観光ホテルの3面展望できるラウンジで、おそくまで懇談することができました。

また、次の日も天気めぐまれて「長崎さるく」コース2の東山手の“異国”散歩とコース3の長崎のチャイナタウンを混合したオーダーさるくを楽しみました。さるくガイドさんから「長崎は坂が多いので高台では住む人が減って、中心部のマンションへ移っている」との話

を聞きながらの坂の長崎のさるく。

途中の階段では、高齢者の方が杖をつきながらゆっくりと下っていくのを見て、思い出したのが昨日の宴会場、「宴会の時は椅子席がいい」との声が複数ありました。交流しやすいのが和式の（坐った）宴会ではないかと思い今回セットしましたが、椅子の方が良かったとの話が多く時代の流れを感じました。

まだまだ若いようですが、もう、われわれの仲間は、それなりの配慮が必要な体に近づいてきているようでした。

さるくは、全員完歩、長崎に住んでいてもここまでは来なかったと、長崎を再発見して長崎のよさを改めて実感できました。

最後は、中華街の会楽園で昼食し、長崎での同窓会を締めくくりました。

楽しい同窓会でしたが、遠方の方も多く、何年かに1度しか皆と顔を合わせることができませんが、次は神戸での再会となりました。



平成25年10月19日（土） 於 稲佐山観光ホテル

48 年卒同窓会開催について

井手 清（昭48）

前回の平成23年10月29日（福岡市博多）開催の同窓会において、今回は3年後に長崎において開催する予定としましたが、今年が丁度卒業40年目の節目にあたるということで、1年前倒しして10月26日（土）に開催しましたので、その概要を報告します。

『拝啓、立秋の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、長崎大学を卒業して40年目を迎

え、皆様には今なお活躍のことと拝察いたします。つきましては、この40年の節目の年に、長崎で、酒を酌み交わしながら青春のひとときの思い出話に花を咲かせていただくよう、皆様お誘い合わせの上、出席されるようご案内いたします。（前回3年後ということでしたが、今年開催します。）』

8月6日に前記開催案内文の作成及び送付等により開

催事務がスタートし、開催日1週間ぐらい前にはほぼ準備が整い、ホットしたところで、連日、伊豆大島の台風26号被害状況のニュースが流れる中、台風27号（名称：フランシスコ）と28号（名称：レキマー）が発生し、その進路は藤原の効果（2つの台風が互いに影響し合う）により複雑（迷走）になるとの気象情報に、幹事としても開催できるかどうか、中止するかどうか、その連絡をいつにするかなどの思いが台風と同じ時系列で迷走し、本文をお読みの方で経験のある方には幹事の心情をお察し願えると思いますが、はらはらどきどきでした。

結果、幸いにして出席者全員の願いが天に届き、晴天の中無事、予定どおりに開催となりました。

さて、卒後40年、時間の経過とともに同窓生の姿形は、若々男女から初期の老老男女と変わったものの、会場（ホテルセントヒル長崎：長崎市筑後町4番10号）は、当然ながら午後5時30分からの受付の段階から終宴までの約3時間30分、卒業当時の若々男女の雰囲気の中での同窓会となりました。

まずは、各人お気に入りの位置での、どこの同窓会にもあるなごやかな風景のなかでの集合写真撮影、次に幹事による、会計、事務処理状況、11月24日に母校で行われる予定のタウンミーティング情報などを簡便に報告・連絡し、ついでに、昨年、長崎の夜景が世界新三大夜景に選出されたことを紹介し、開催宣言、乾杯へと進行しました。

開催宣言と乾杯は勝手に幹事で担当し、最後の締めめの発声は受付での席順のクジでラッキー7を引き当てた方をお願いしました。

一次会は、広々とした部屋の明るい照明の下、男性7名、女性13名の計20名の出席者が、大きな文字（理由はわかると思いますが）で記載されたネームカードを胸元に掲げ、昭和から平成の40年間の月日の流れをさかのぼり、そのネームカードとともにシワの一つもない当時の顔

の思い出などが、各人各様に断片的ではあるものの鮮明に思い出された様子で、会場に広がる様が伝わってきました。目の前の色とりどりの豪華な食事（ちなみに卓袱料理）も色あせる活発なおしゃべりが、徐々に、徐々にアルコールと共にヒートアップし、3つのイス式円卓が置かれた室内において、時空を超えてくったくのない笑い声とともに自由奔放かつ上品に飛び交い、つつい誰しも自然に笑顔がこぼれるといったなごやかな雰囲気となりました。制限時間3分間の出席者による近況スピーチもなごやかな雰囲気の中で行われました。

宴会が最高潮に達したところに終了を告げることは、進行役としてはつらいものがありますが、締めの発声担当に当選した席順ラッキー7の方をお願いし、万歳三唱で散会となりました。

一次会の勢いのまま、二次会会場（銅座のスナック）へとタクシーにより15名（事前の予定は12名でしたが3名追加参加）繰り出しました。この二次会の会場においては、カラオケは途切れることもなく歌い、談笑も一次会の延長となり、それぞれの都合の時間帯に別れを惜しんでその会場を後にしました。

最後に、今回、出席された方々へ感謝を申し上げるとともに、次回同窓会は2年後の平成27年に横浜近辺で開催する予定と決定しましたので、是非より多くの同窓生が出席されることを同窓会学年理事として切望し、本投稿文作成のパソコンマウスを手元から離すことといたします。

出席者名簿（敬称略）相川康博、井手 清、埋金年代、大津富美子、金子伸夫、金子洋子、亀山清廣、小松則江、高比良康子、竹嶋直樹、津村恵子、中川智子、仲子くみ子、中嶋誠一、中村啓子、長谷川信子、久松有美子、平田美恵子、森重徹洋、山口美好

平成25年10月29日 添削校正者 相川康博



平成25年10月26日 於 セントヒル長崎

2013 年昭和 49 年卒及び 45 年卒同窓会 - 五島 -

森 つよ子（昭49）

2年に1度のルール作りをして平成9年岡山で始まった49卒同窓会も長崎、萩、別府、松山、大阪、ハウステンボス、還暦記念の太宰府と今回11月3日（日）五島で9回目。以前から候補には上がっていたものの、ついに五島に指名を受けてしまいました。過疎で何も無い島にと思いました。一人幹事の独断で何とか開催にこぎつけました。

文化の日は晴の特異日だったはずなのに全国的に雨。11月2日から終日雨。誰が雨男？雨女？と言いながら……ちょうど親の介護、孫の世話など家を空けられない人が増えた中29名の出席で大いに盛り上がりました。

11月3日朝から緑濃い山々に囲まれエメラルドグリーンの海に浮かぶ筏での釣りを楽しむ男性3名（釣果の程は本人の自己申告なので……？）、雨の中ゴルフを楽しんだ7名（内1名はゴルフのために奥様に同行し来島していただいた先輩、雨でごめんなさい）。朝一のジェットフォイルで来て頂いたのに、船がゴミを吸い込むトラブルで30分遅れとなり嘔吐で大変だった二人、お疲れ様。せっかくの五島なのに初めから大変な思いをし、美しい海の色も楽しむこともできずに心苦しい始まりでした。

それでも、受付をしながらいつもの懐かしい顔をお迎えし、6時から開宴。一人幹事で舞い上がっていた私は、各自の近況報告もすっかり忘れてしまい、皆夫々に今を、そして昔のあの頃を語り合い、楽しく賑やかに大いに盛り上がりました。記念撮影も皆、少し前に出たお腹を引っ込めながら皆で大笑い。次回の開催地は東京で

とお願いしたところ、佐賀や兵庫の声上がり、結局は兵庫（有馬温泉？の声も）に決まり、その次が東京。そして京都、佐賀も覚悟しているかのように要請があれば受けましょうといった雰囲気でした。

兵庫を受けた堅田さんは亀山さんを巻き込んで、今までに一度もなかったカラオケそして神戸で会場を賑わせました。

二次会は女性7名の大きなお部屋に会場を移し、近況報告。孫の話、親の介護、結婚しない子供を案じる話、そして歳森さんの漢方での子宝相談で少子化のこの時代に600人以上の子宝に恵まれ、2冊目の本を出版、80歳まで頑張りますと同級生の希望の星!! 柴崎先生・小西先生の似顔絵切手も皆に回覧して、先生そっくりの切手に皆にっこりでした。皆歳のせいか、アルコールや食べ物の量も少なくなったなあと思いながら解散。

11月4日は、やっと天候も回復し夫々のグループがレンタカーで島内を巡り、福江島を楽しんでいただきました。

学生時代はほとんど話をしたことも無かった同級生と回を重ねるごとに仲良しになり、今年家族を亡くした私を心配して下さる仲間に本当に感謝したひと時でした。皆さん、会の進行など行き届きで、悪天候で本当にごめんなさい。次回は兵庫です。いつもの仲間も、今まであまり出席したことがない人も、健康に気を付けて、ぜひ2年後は兵庫でお会いしましょう。同級生バンザイ!!



長楽49年卒及び45年入学同窓会 平成25年11月3日 於 五島カンパナホテル

5列目		馬場	灘	立花	原田	古賀	
4列目	岡本	野中	堅田	小林	小林		
3列目			池田	中野	白木	西田	
2列目	橋本	立花	西岡	佐々岡	拝崎	石橋	緒方 山田
1列目	上ノ段	馬場	亀山	今村	森	松井	歳森

S51 年卒同窓会報告

幹事代表 藤原 正晴（昭51）

平成25年10月12日（土）18時よりANAクラウンプラザホテル長崎グラバービルで5回目、卒業して38年目の同窓会を開催しました。多くの方はちょうど還暦の年に当たります。

遠くは四国、関西、関東など全国各地から42名が集まりました。同窓会初参加の顔ぶれもちろはら見られるなど、久しぶりの再会を喜ぶ顔で受付ロビーが埋め尽くされ、会場のあちこちでも人集りができていました。みんな、なかなか席に着こうとはしない中、田原くんの「開会宣言」の一声でやっと開会の運びとなりました。

乾杯の後、豪華な卓袱料理と懐かしさで話が弾み、今回の特別企画として懐かしい写真十数枚を原田さんの楽

しいトーク付きでスクリーンに映し出しました。写真に登場する方の若かりし頃の姿、一人一人の名前、その時のエピソードなど面白可笑しく披露され、会場は大いに盛り上がりました。

宴もたけなわになった頃、一同の集合写真を撮り、次回開催の多数決をとり、3年後の福岡開催を決定しました。

恒例により、次回開催地幹事代表（？）平田くんが一本締めで締め、会を終りました。本当にあっという間の3時間でした。

みんな名残を惜しみながら、二次会、三次会へと流れ、福岡での再会を誓って解散しました。

<42年前>



長大薬学部一年第一回コンパ 昭和47年6月16日

<現在>



平成25年10月12日 於 ANAクラウンプラザホテル長崎

同級生 白倉（旧姓中野）利恵さんと赤木聡君を偲んで

山口 正広（昭56）

長崎大学薬学部を昭和56年に卒業した私たちの仲間がお二人お亡くなりました。一人は、白倉（旧姓：中野）利恵さん、もう一人は、赤木聡君です。

白倉さんは、私の高校の同級生でもあり、昨年暮れに開催された高校の同級生の集まりの中で「白倉さんが亡くなったのではないか？」という話を聞きましたが、不確かな情報であり「まさか。」と思っていたところ、「2012年の長葉同窓会報第52号の物故者氏名の欄に名前が載っている。」という連絡が大学の同級生からあり、確認したところ、平成23年10月8日にお亡くなりになっていたことが判りました。

白倉さんは、卒業後、私の記憶では、諫早市多良見町の慈恵病院に就職され、その後、結婚に伴い神戸に転居されたと思います。高校や大学の同窓会でもなかなかお会いすることができませんでしたが、高校の同窓会のお世話をしていたときに、参加のお誘いのため、神戸のご自宅に電話を入れ、お話しをしたことを覚えています。

赤木聡君については、本年8月17日に癌のためお亡くなりになりました。赤木君とは、大学の同級生として、また、同じ長崎県職員として、公私にわたって付き合いがあり、卒業20周年や25周年、30周年の記念同窓会についても長崎在住の他の同級生とともに一緒になって記念同窓会の準備に取り組みしました。

赤木君は、2年前の平成23年10月に長崎県雲仙市小浜町雲仙で開催した“卒業30周年記念同窓会”の後に受けた人間ドッグの再検査で大腸と肺に癌があることが判明、その時はステージ4の段階だったとのことでした。

その後、同年12月に抗癌剤による治療のため長崎大学病院に入院、一旦退院し、抗癌剤による通院治療を続け、翌年3月には、長女“優美さん”の結婚式を無事済ませた後、長崎大学病院で大腸癌の切除手術を受けています。

その後、長崎大学病院に通院しながら抗癌剤による化学療法を続け、一時期は、治療の効果も上がっていたようで、赤木君からは「肺癌の陰が少なくなった。」とか「大腸癌の腫瘍マーカーが改善した。」という話を聞き、安心していたところです。

今年4月の人事異動では、念願の長崎県環境保健研究センターの所長に就任し、同センターの業務や改革に精力的に取り組んでいました。その一方で、抗癌剤による薬物治療の効果が徐々に上がらなくなっていたようで、「肺癌への効果はあるが、副作用も強く出て薬を変えてみるようになった。」とか「大腸癌の腫瘍マーカーが高くなった。」という話を6月頃から聞くようになりました。

今年の7月中旬には、私の職場での打ち合わせの時に

話をされている際、息切れがして呼吸が苦しそうなお状況であり、肺の機能が低下していることが伺えました。

そして、8月11日の夜、同日長崎市で開催されたスポーツファーマシストの講習会に出席した石居君から「スポーツファーマシスト講習会に出席したが、一番最初から出席を予定していた赤木君が欠席していた。事務局の上島君に確認したところ、急に具合が悪くなり急遽欠席したとのことであった。心配になり、赤木君宅に電話を入れ話をしたが、電話の最後に赤木君が『声を聞けて良かった』と言った。これは、早い時期に会いに行った方がいいかも知れない。」という内容の電話がありました。

その後、日程について調整を行い、8月17日13時過ぎに赤木君宅を石居君と一緒に伺うことにしていましたが、8月16日長崎大学病院に急遽入院、結局、生前の赤木君に会うことができないまま、8月17日午後2時頃お亡くなりになりました。こんなに別れの時期が早く来るとは想像もしていませんでした。亡くなられた日の夜、石居君と一緒に赤木君の仮通夜に出向きましたが、苦しまれた様子もなく、安らかなお顔で眠っておられるようでした。

翌8月18日に行われた通夜式や翌々日の19日に行われた告別式には多くの方々が弔問に訪れられ、赤木君の人の厚さや幅広い交友関係を再認識した次第です。赤木君の通夜式や告別式では、オフコースの“さよなら”の曲が繰り返し流れており、学生時代のことが思い出されました。



昭和52年11月薬学寮

自宅のパソコンの壁紙は、一昨年10月に開催した私たち長崎大学薬学部昭和56年卒業生の卒業30周年記念同窓会の全体集合写真を貼り付けており、写真の最上段中央には、東君と上島君の間に、赤木聡君が笑って立っています。

何の映画だったか忘れましたが、ある映画の中で「人

は二度死ぬ。」という台詞を聞いたことがあります。1回目の死は身体的な死，2回目の死は人の記憶から存在が無くなることだと映画の中では言っていました。

二人の同級生は身体的にこの世を去って行かれました

が，私たちの記憶の中には生き続けています。亡くなられた同級生のご冥福をお祈りしながら，今後も学生時代の話に花を咲かせる機会を持ち続け，記憶を絶やさないようにしていきたいものです。



平成23年10月9日 卒業30周年記念同窓会

忘れえぬ人々

高良 真也（昭57）

いつの頃からか，新聞のお悔やみ欄を見るようになりました。この春，見知った名前を見つけました。「坂井好」あのだみ声が思い出されました。「こんままじゃ，留年すっぞ」そのおかげか，我々の学年は，一人の留年も出さずに，卒業できました。薬学部の後，経済学部や本部の学生支援部などを経て，定年。定年後しばらくは体育館の事務室におられました。何度かソフトボールの道具を借りに行った事を思い出します。最後にお会いしたのは，5年ほど前，浦上駅のそばの歩道でした。

真弓さんも最後は本部の学生支援部で定年されました。何度か全学の会議で一緒にする事もありましたが，あちらはご存知なかったようです。暴れん坊の図書の下山さんは，薬学部の図書室がなくなるのと前後して，教育学部の図書室に移されましたが，やはり定年を迎えられています。最後は茶髪であいかわらずオシャレでした。心やさしい野口さんや宇土さんは定年を待たずに，鬼籍に入られました。

鳴海ママは，早期退職で2年ほど前に，大学を去られました。入試課などを経て，最後は工学部の大学院担当でした。小さい頃の娘さん達を大学でお見かけする事も

ありましたが，いまはもうおばあちゃんです。中山さんは，この春，環境科学部で無事定年を迎えられ，現在は再雇用で男女共同参画推進センターにおられます。

元素分析の馬詰さんは，とうに定年されましたが，定年後もお昼休みになるとラケット片手に体育館に向かう姿を何度かお見かけしました。同窓会報の「三朋会」の写真の中にお顔を拝見することも多いです。薬学祭のテニス大会に女子学生とペアで出場した事もあるマス（質量分析）の山口さんは，定年後シニアスタッフとして，共同研究支援部門（旧機器分析センター）におられましたが，先日部門をのぞいたところ，すでに満期（3年）が経過し退職されていました。今は奥様と2人暮らしとお聞きました。現在は，薬学祭の体育祭で快足を披露していたNMRの稲田さんが，シニアスタッフとして働かれています。娘さんは薬剤師として活躍されているそうです。

皆様の顔を思い浮かべながら，先生方以外にも沢山の方々にお世話になって，楽しい大学生活を送っていたのだと，改めて思いました。

*うろ覚えのため内容に不正確な部分があるかも知れませんがご容赦ください。

三浦博史先生を囲む会

金子 富美（昭59）

平成25年11月23日（祝）セントヒル長崎にて昭和50年卒業から61年卒業までの22名の放射薬品学教室出身の同門生が集い、三浦先生（昭33）の傘寿をお祝いする会を開催しました。

放射薬品学教室は、今は教室もなくR I室も薬学部からなくなってしまいましたが、それぞれの参加者が教室での思い出話を披露すると、同じ学年でなくても、放射で過ごした楽しい時間が蘇り、学生気分になることができました。また、三浦先生や発起人代表の北村美江先生（昭50・現環境学部教授）が学生時代と変わらず若々しいお姿でいらっしゃることに、参加者は皆感動を覚えま

した。「故杉井教授の元で学んだ同門生として、科学者としての意識や誇りを忘れずに今後も頑張っていきたいと思います」という三浦先生のお言葉に参加者一同励まされました。

今回は急な思い立ちで、一部の卒業生の方にしかご連絡ができなかったことも併せてこの場を借りて、お詫び申し上げます。（放射ご出身の方で次回参加したい方は、ぜひ同窓会へメルアド登録をお願いします。）

発起人事務局昭和59年卒業

和田 稔 aozora89@kind.ocn.ne.jp

金子 富美 kaneko_fumi@kurume-u.ac.jp



平成25年11月23日 於 セントヒル長崎

昭和61年薬学部卒同窓会 in 鹿児島

佐藤（真下）多恵（昭61）

児島新幹線が開通し、長崎、福岡とのアクセスも良くなった勢いで3年ぶりの同窓会を鹿児島市で開催しました。7月20日、当日は、相変わらずの猛暑ではありましたが、桜島の灰も市内には降ることもなく、町は祇園さんの祭りで絶好の宴会日和! この日を待ちわび、遠くは東京から駆けつけてくれたメンバーもいて、合計23名

の卒業生が、鹿児島市の熊襲亭に集い久しぶりの再会を果たしました。

鹿児島在住のメンバーが幹事役を務めてくれている中、久しぶりの再会に同窓会開始前からすでにテンションは上がりっぱなし。今回初めての参加のメンバーもいましたが、そこは同じ釜の飯を食べた仲間、ん十年のブ

ランクを飛び越えて学生時代に戻って話が弾みました。幹事の山崎君、上園君の挨拶で開会となり、まずは残念ながら故人となった坂川則子さん、藤美代子さんの冥福をお祈りさせて頂きました。その後、参加者の近況報告となった訳ですが、卒業してからの歳月の長さを物語るのか、戸籍が変わった人続出、かたや相も変わらずラブラブの家庭生活を送っていて、お惚気を披露してくれる人と様々な話が続出で会場は笑いに包まれました。そのうち、学生時代の思い出にも話題はおよび、今は無き‘大力’や、フラワーメイトのチキスパはまだメニューにあるのか等、皆がお世話になった大学周辺の飲食店にも想いを馳せていました。

盛り上がりが続く中、なぜか二次会は次回と同窓会の

開催場所で盛り上がってしまい、次回幹事役の長尾君に女性からのリクエスト続出!! 長尾君なら皆からの我儘なリクエストにも何とか応えてくれそうです。今回は2年若しくは3年後に長尾君幹事で、東京開催を予定していますので、長尾君を始めとする東京在住の皆様宜しくお願いします!!

まだまだ暑さが続く鹿児島県の夜、元気な中高年の男女が次の店を探して夜の街に消えていった模様ですが、夜更かしが出来なくなった報告者は敢え無くホテルに帰還し、それぞれの思い出を胸に鹿児島県の暑い夜を過ごしました。

鹿児島県同窓会開催幹事の皆様本当に有難うございました。



平成25年7月20日 於 熊襲亭（鹿児島市）

有吉敏彦先生瑞宝中綬章受章祝賀会が開催されました

本多 雅幸（昭62）

7月14日（日曜日）に、ホテルニュー長崎において有吉敏彦先生の瑞宝中受章祝賀会が、和泉 喬先輩（昭45）、有蘭幸司先輩（院昭54）、濱崎和久先輩（昭54）が発起人となり開催されました。

昭和35年に有吉先生が赴任されてから、退官された平成8年までに衛生化学教室に在籍した卒業生が約270人、そのうち連絡先がわかった232人の方々に祝賀会のご案内をしたところ、九州内の卒業生はもとより遠くは関東から合計75人にご出席いただきました。

祝賀会は17時からの写真撮影でスタートの予定でしたが、2時間くらい前から出席者が集まり始め、16時には有吉先生ご夫妻も会場に到着され、控室は、既に同門会の雰囲気です、皆さん時間を過ごしていらっしゃいました。

祝賀会は、発起人あいさつ、祝辞、記念品の贈呈、有吉先生からの謝辞、乾杯に始まり万歳三唱まで、司会に無理やり抜擢され緊張していた山下慎一さん（平8）のもと滞りなく始終みなさんの笑顔で進み、最後は、長崎駅で有吉先生ご夫妻をお見送りして散会となりました。

あっという間の約3時間、事務局の不手際も出席された皆さんにフォローしていただき、お陰様で、手作り感満載の同門会による楽しい祝賀会となったのではと思っています。

衛生化学教室の同門会は年1回は、長崎在住の卒業生が輪番で幹事となり開催していましたが、しばらく休会となっていました。これを機会に定例会復活となりますことを祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。

最後になりますが、当日参加できなかった衛生化学教室の同門の皆様からも、祝意や暖かいメッセージを頂き感謝を申し上げますとともに、名簿作成やホームページ

への掲載など長薬同窓会事務局の方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

追伸

当日の写真をインターネットのアルバムに保管しています。ご連絡いただければアドレスとパスワードをご返信します。是非、有吉先生的美魔女ならぬ美魔人(?)ぶりをご覧ください。また、祝賀会当日上映しようと事務局で同窓会室に保管してあった卒業アルバムから写真を抜き出してビデオも作成していたのですが、先生とお話する時間を少しでも長くしていただくために、お蔵入りとなりました。どんな中身か知りたい方もご連絡を!

(本多雅幸: choyakueiseikagaku@gmail.com)

当日出席された方々(敬称略)

栗屋(鴨川)(昭36)	矢野(河村)(昭41)	井関(福川)(昭41)
竹尾(昭42)	村上(清益)(昭43)	山中(林田)(昭43)
内田(昭44)	中村(桑原)(昭44)	藤井(院44)
和泉(昭45)	若松(野尻)(昭45)	西村(昭47)
辻村(片山)(昭48)	高比良(横田)(昭48)	西田(大川)(昭49)
大平(昭49)	池田(酒井)(昭49)	栗原(吉武)(昭50)
上ノ段(昭50)	江口(昭50)	山田(昭52)
佐田(昭53)	浦田(昭53)	山本(井上)(昭54)
田村(竹丸)(昭54)	濱崎(昭54)	有蘭(院54)
國場(院54)	荒木(高比良)(昭55)	小野(村井)(昭55)
山本(院55)	濱崎(小泉)(昭56)	八田(昭56)
山口(昭56)	松本(八尋)(昭58)	上野(昭58)
清水(林)(昭58)	松本(昭58)	菅野(山下)(昭58)

中島(中島)(昭59)	上野(西川)(昭59)	竹尾(手島)(昭59)
津田(羽野)(昭59)	金子(昭59)	入潮(昭60)
山本(原嶋)(昭60)	南里(昭60)	山口(村島)(昭60)
坂本(院昭60)	中嶋(中野)(院61)	栃倉(田邊)(院昭62)
小川(昭62)	本多(昭62)	熊高(岡田)(平2)
富田(平2)	福田(松尾)(平2)	武田(峰)(平2)
山本(平2)	中村(平3)	橋本(平4)
中島(福井)(平4)	浅原(前田)(平4)	富田(宮崎)(平4)
賀川(平5)	賀川(倉地)(平5)	瀧口(院平5)
竹石(平6)	土井(波多野)(平6)	栢(平7)
西島(佐藤)(平7)	土井(平7)	渡部(平7)
山下(平8)	木下(昭35)	石橋(昭61水産卒)



有吉敏彦先生 瑞宝中綬章受章祝賀会 平成25年7月14日 於 ホテルニュー長崎

次世代同期会？

稲嶺 達夫（平18）

薬学部を卒業して早くも8年が過ぎようとしています。この間に変わったこともあり、変わらないこともあります。永井君と僕は相も変わらず薬学部に着き続け、二人とも薬学部のスタッフとして研究や後輩の指導に充実した日々を送っています。一方、私事ですが、2012年6月に同期の中原麻美さんと結婚し、今年の8月に長男を授かりました。地元を離れての子育てに日々翻弄されていますが、周りのサポートを受けながらなんとかイクメン活動頑張っています。

そんな我が家を会場に、去る10月5日に長崎大学薬学部二世代会同期会を行いました。主役は、どちらも今年4月生まれの近藤維志君の長女ちゃんと森 善洋君の長男君、そして我が家の長男です。お互いの子供が同級生としてこうやって集まることになるとは10年前には想像だにせず、なんか変な感じだなーと思い、話題の中心が育児や生活のことになっていることに、またまた、なんか変な感じだなーと思い、子供にでれでれのイクメン同級生を大人になったなーと少しだけ感じる楽しい会でした。もちろん子供達は今日のことを覚えてはいないと思います。

ですが、この縁がこれからも続けば良いなと感じました。

最後になりますが、永井君も僕も変わらない格好で薬学部の廊下を歩いていますので、長崎に遊びに来た際には是非声を掛けて下さい。また、長崎から同窓会を提案していきたいと思っております。差し支えがなければ、[dosokaiin2011@gmail.com] に現在の連絡先ご連絡下さい。ご指定の連絡先に次回から同窓会のご案内を遅らせて頂きます。



プチ同窓会

川鍋 早紀（平24）

卒業して2年。みんな新しい環境にも慣れてきた頃で、そろそろ、それぞれの近況報告を聞きたいと思い、同窓会を今年9月に行いました。九州にいる人から関東在住の人まで20人以上集まり、最近の話から学生時代の思い出話まで話は尽きず、楽しく懐かしい時間を

過ごしました。

可能ならば年に1回くらいのペースで同窓会をしたいと思いますので、同級生のみなさま、また今回来られなかった方も次回は是非参加をよろしくお願いします。



平成25年9月22日 於 STEREO（福岡市）

平成 25 年度九薬連

親富祖 翔太郎 (学部3年)

平成25年5月3日～5日にかけて、第56回九州薬学連盟体育大会が福岡大学主催のもと福岡で行われました。

今回の試合を通して多くの人たちと交友を深めることができ、また遠くから駆けつけてくださった先輩方の応援をうけ、改めて薬学サークルの楽しさを実感できました。

結果は以下の通りです。

野球部

・一回戦 長大 8-9 長崎国際大

バレーボール部 (二位)

・予選 長大 2-0 第一薬大
長大 1-2 熊大
・準決 長大 2-0 崇城大
長大 0-2 熊大



硬式テニス部 (男子)

・予選 長大 2-5 熊大
長大 3-4 九保大



硬式テニス部 (女子)

・予選 長大 3-4 第一薬大
長大 1-6 九保大

バスケットボール部 (男子)

長大 42-58 九保大
長大 76-40 長崎国際大
長大 30-60 崇城大
長大 50-54 第一薬大



バスケットボール部 (女子)

長大 30-64 熊大
長大 51-49 第一薬大
長大 25-47 福大
長大 28-19 九保大



バドミントン部

長大 2-3 熊大
長大 0-5 福大



サッカー部

長大 0-1 九保大
長大 1-7 熊大
長大 0-2 福大



グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動

堀 裕輝（学部3年）

平成25年8月4日、25名の学部学生・院生、19名の卒業生・役員・事務局の方が、14回目となるグビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動を行いました。

猛暑の中、草むしりや落ち葉拾いといった作業を1時間ほど行った後、記念撮影をし慰霊碑に線香をあげて犠牲となった先輩方を追悼しました。

私は今回で3回目の参加となりますが、私にとってこの活動は、戦争について考えさせてくれるいい機会となっています。戦争から86年が経った今、私達が戦争について触れる機会は次第に減っていますが、今回のように実際の現場を訪れることで当時の人々の悲しみや苦しみ、戦争の残酷さなど感じ、今の世の中がいかに平和であるかがわかります。



清掃活動を終えた後は、近くの中華料理店で参加された方々と会食をしました。最初に一人ずつ自己紹介をし、薬学部校歌を斉唱した後、食事をしながら懇談をしました。普段合うことのできない方々ともお話することができ、とても有意義な時間となりました。

最後になりましたが、ご多忙のところ時間を作って参加してくださった皆様、暑い中本当にお疲れ様でした。また、何年にも渡ってこの活動が続くことを願っています。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

岸川 直哉（平10）

11月10日（日）に旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を行いました。前日まで雨が続き雨延期も心配されておりましたが、参加者の日頃の行いが良かったためか、当日は雨に降られることはなく無事清掃作業を行うことができました。

記念碑まわりの雑草やゴミを取り除き、記念碑をきれいに拭きあげた後、全員で記念撮影を行いました。その後、例年のように諫早市内での食事会を開催し、鰻の蒲

焼きを頂きながら和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。今年の参加者のお名前は次の通りです。山中会長ご夫妻、麻生（昭24）、峰（昭26）、吉田（昭37）、原田（昭51）、田原（昭51）、濱田（昭54）、七種（昭56）、藤島（平3）、梶島（平4）、岸川（平10）、武次（事務局）です。お忙しい中、参加して頂きありがとうございました。



第5回 長崎大学ホームカミングデー 2013

松尾 洋介（平15）

平成25年11月23日に第5回長崎大学ホームカミングデーが開催されました。ホームカミングデーは、卒業生の皆様に母校である長崎大学に帰ってきてもらい、大学の近況に触れ、恩師や学友との再会や交流、親睦を深め

て頂くために、大学が卒業生の皆様をお招きするものです。5回目となる今年も、長大祭に合わせて開催されました。



チアリーディング部

今年は元プロ野球選手・監督・野球解説者の田尾安志さんをお招きし、「伸びる人間の条件」をテーマに講演会を開催しました。田尾さんの選手時代や、東北楽天ゴールデンイーグルス初代監督を務められていた頃の話を中心に、大変興味深い話を聴くことができました。この他に、ロマンツアー合唱団による演奏、チアリーディング部、落語研究会、よさこい部「突風」による演技が

披露されました。

その後、生協食堂2階にてホームカミングデー・パーティーが行われ、アカペラサークル「はもねびあ」や軽音楽部による演奏が披露される中、楽しい歓談のひとつを過ごしました。

ホームカミングデーは来年も開催される予定です。機会がございましたら是非ご参加下さい。



ロマンツアー



落語研究会



よさこい部「突風」



はもねびあ



軽音楽部



パーティー

クラブOB会だより

平成25年野球部OB会と親睦試合記

OB会

堀 裕輝（学部3年）

平成25年11月16日の土曜日、宝来軒別館にて毎年恒例の野球部OB会が開催された。今年の参加者はOB28名と現役部員32名でした。

会を開催する前に、昨年8月に逝去された今泉喜世志先生（昭31）に代わって引き続き準硬式ボールを寄贈してくださったご子息の方と現役部員との集合写真等がスクリーンに写し出されました。その後、西脇金一郎先生（昭33）、小西良士先生からご挨拶をいただき、小西先生の乾杯のご発声でOB会がスタートしました。

中華料理を口に運び、お酒を飲みながら、OBの方々に当時の野球部のお話をお聞きたり、野球以外にも多くのお話をさせていただきました。最初は別々のテーブルに座っていたOBと現役部員もいつの間にか入り乱れて、会場は笑い声に包まれました。

その後は現役部員により巻頭言と校歌が歌われ、大山

要先生（平12）から次の日のOB戦のオーダーが発表されました。そのメンバーは1番ピッチャー：吉田泰史さん（昭55）、2番キャッチャー：古賀健太郎さん（平20）、3番ファースト：坂田真人さん（平15）、4番セカンド：只熊郁也さん（平24）、5番サード：中谷勲男さん（平25）、6番ショート：桑田拓也さん（平21）、7番レフト：木戸充彦さん（平2）、8番センター：荒木康平さん（平23）、9番ライト：楠富伊織さん（学5）でした。

最後に近藤雅也先生（昭61）に万歳三唱で会を締めくくっていただきました。お忙しい中、ご参加いただいた上に部費まで寄付してくださったOBの皆様、本当にありがとうございました。来年も引き続きたくさんのご参加をお願いします。



平成25年11月16日 於 宝来軒別館

親睦試合（OB戦）記

下岡 巧弥（学部3年）

11月17日、早朝に雨が降り、グラウンドの状況が不安視された中、幸いにも明るくなる頃には雨が止み、グラウンドの状況も万全で、今年も例年通り、無事にOB戦を行うことができた。

初回、互いに四球でランナーを出すものの点を許さず、続く2回表のOBチームの攻撃で早くも試合が動いた。5番の鎌水さん（学4）が四球で出塁し、盗塁を決め、チャンスを作り、迎えたこの場面で7番の只熊さんがレフト前へとヒットを打ち。あっさりと先取点を獲得した。このままではいられない現役チームもヒットや四球でチャンスをつくり、反撃にでる。一死ランナー2、3塁、8番の横関（学2）がライト前へタイムリーヒット。2点が入り、逆転に成功。3回、4回にも現役チームは点を積み重ね、6-1へとリードを広げた。しかしOBチームも黙ってはいない。5回表、9番の小野さん（平25）がヒットで出塁すると、1番の中谷勲男さんがセンターオーバーのタイムリーツーベースで2点目を、3番の森田さん（学4）がセカンドゴロを打ち、これをセカンドが送球ミス。これで3点目を返した。5回裏、OBチームに点を入れられ、差をつめられ、何としてみても点が欲しい、少なくとも簡単に終われないこの状況で、ランナー3塁の場面、7番の堀（学3）がライト方向へ本塁打を放った。取られた分を取り返しそれどころ

か6回、7回にも点を追加し、得点の差は11-3の8点差にまで広がった。このまま現役チームが逃げ切るかと思われた。しかし最終回9回表、OBチーム最後の攻撃、8番の荒木さんのレフトへのランニングホームランを皮切りに9番小野さん、2番古賀さん、3番森田さん、4番佐藤さん（平22）、5番中谷治規さん（学4）、6番桑田さんとの反撃の手を休めることなく8点もあった点差が3点にまで縮まった。油断ができず、予断を許さないなか、現役チームの投手の加藤（学1）がふんばり、最後は見逃し三振でOB打線を抑え、11-8現役チームの勝利で試合を終えた。

試合後に行う恒例の食事会。様々な話に花を咲かせながら、今年のOB戦は幕を下ろしました。今回出席してくださった先輩方、残念ながら出席できなかった先輩方、ご多忙だとは思いますが、もし来年ご都合がつかましたら、是非ご参加ください。現役生一同、心よりお待ちしております。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
OB	0	1	0	0	2	0	0	0	5	8
現役	0	2	3	1	2	1	2	0	×	11



平成25年11月17日 於 長大グラウンド

第29回薬学硬式庭球部OB会

濱崎 久司（学部5年）

11月2日、3日の二日間、今年で第29回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

2日は松山町の市営庭球場にてOB対現役生による対抗戦を行いました。秋の訪れを感じさせないような暖かい日々が続いており、この日も天気にも恵まれ、絶好のテニス日和でした。

山本先輩（院昭55）、西田先生を始めとする先輩方がお忙しい中都合をつけて頂き、多くの試合をすることができました。昨年に引き続き、今年も、山本先輩の中学校の同級生であり、テニス部発足時にテニスのご指導を頂いた百武さんと、古賀先輩（平8）、梅北先輩（平11）も参加してくださいました。また、今回、懇親会のみではありましたが、OB会へ初めての出席となった、大山先輩（昭60）の参加が特筆すべきことではないでしょうか。試合結果は、例年通りOB、OGの圧勝でした。体力では負けていないはずの現役生ですが、先輩方

の技術と経験の前では、やはりまだまだで、さらに練習が必要ということだと思います。各試合後には、対戦したOB、OGの方からご助言を頂き、現役生にとっては大変有意義な経験となりました。

対抗戦後は、懇親会を松山町の宝来軒別館で行いました。参加者はOB、OG、現役生合わせて56名にのぼり、大盛会となりました。会の後半では、現役生の自己紹介、OBの方々のお話と進み、現役生にとってはテニスについて、また普段は聞けないような仕事についてのお話を聞いた貴重な時間であったと思います。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も今年で29回を迎え、これからもさらに発展していくことと思われます。来年は30回を迎える節目の年でもあるため、より一層の大盛会にしたいと考えております。今年は残念ながら出席できなかった先輩方も、ご都合がございましたら、来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同、心よりお待ちしております。



平成25年11月2日 於 長崎市営庭球場

平成 25 年薬学バスケットボール部 OB 戦

親富祖 翔太郎（学部3年）

9月21日（土）に薬学バスケットボール部のOB対現役生による交流戦が行われました。以前はこのような機会はなかったそうですが平成23年からOB戦が行われ、今年で3回目となりました。

平成23年度に卒業された先輩方を中心に、さらにその先輩方といった方々に集まっていただき、普段の練習とはまったく違った雰囲気での交流戦となりました。多くの先輩方と久しぶりに再会し、試合の合間、教授の話や現在の薬学部の雰囲気のことなどについて話ことができ、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

交流戦の後には居酒屋で現役生とOBを交えての親睦会が行われました。社会人生活の話や薬学部の様子などいろいろな話で盛り上がりました。

今回で第三回となった薬学バスケットボール部OB戦ですが、同じ学び舎で学んだという繋がりを大事にし、これからも継続していけたらと思います。今回、多くのOBの方が参加してくださった事がとても嬉しかったです。また、残念ながら参加できなかったという方々も、来年はご都合がつかましたら是非ご参加ください。現役生一同お待ちしております。



平成25年9月21日 於 長崎大学総合体育館

薬学軟式庭球部 OB 会・OB 戦

菅 忠明（学部3年）

11月30日に軟式庭球部OB会を開催いたしました。

今年は住吉の上海台所にてOB会を行いました。残念ながらOBの方々の都合が合わず、少ない人数での開催となってしまいました。しかし、社会人として長く働かれています方から、一昨年ご卒業された方まで、少ないながらも様々な年代の方に来ていただき、とても楽しい会となりました。

長崎大学薬学軟式庭球部員も年々増加の一途をたど

り、OB総勢300名を超えることとなりました。毎年頂いているOBの方の近況報告では、さまざまな形で先輩方の御活躍を拝見させていただき、少しでも近づけるようにと、現役生一同より精進せねばと気持ちを新たにしております。今回出席して下さった先輩方、残念ながら出席できなかった先輩方、ご多忙だとは思いますが、もし来年都合がつかましたら、是非ご参加下さい。現役生一同、心よりお待ちしております。



平成25年11月30日 於 上海台所

庶務報告

岸川 直哉（平10）

面」等の余興もあり、大変和やかで盛大な懇親会となりました。

○定例理事会

平成25年4月7日（土）13時00分より薬学部第二講義室で開催されました。山中國暉同窓会長（昭43）の挨拶の後、平成24年度事業報告および決算報告、平成25年度事業計画案および予算案が討議されました。

続いて、佐世保支部の相川支部長（昭48）よりホテルオークラJRハウステンボス（長崎県佐世保市）で開催される平成25年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成25年度長薬同窓会定期総会

平成25年6月8日（土）17時00分より、長崎県佐世保市のホテルオークラJRハウステンボスにて開催されました。総会では、山中会長による開会挨拶の後、松本玲子氏（平1）、井手指月氏（平2）および山口 拓氏（平8）の3名により構成される校歌隊の指揮による校歌斉唱が行われました。その後、島田志津枝氏（昭45）を議長に選出して議事に入り、平成24年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。引き続き、山中会長より平成25年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地（長崎市）について長崎支部ぐびろ会濱田哲也会長（昭54）より説明がありました。総会終了後、同じ会場で開かれた懇親会では、長崎国際大学の留学生による中国の伝統芸能「変

○支部長交代

- ・長崎支部ぐびろ会 新会長 濱田哲也氏（昭54）
平成24年7月7日 支部総会で決定
 - ・大分支部 新支部長 石橋 眞氏（昭49）
平成25年1月26日 支部総会で決定
 - ・山口支部抜天会 新会長 今村明久氏（昭49）
平成25年10月26日 支部総会で決定
- 以上の届け出がありました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成25年8月4日（日）に、ぐびろが丘原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役院生・学生で行ないました。また、11月10日（日）に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

○寄贈

有吉敏彦氏（特別会員）より、ご自身の著書「薬物代謝」第3版 2冊、吉岡優子氏（昭56）より、ご自身の著書「人と薬の羅針盤」1冊および中嶋幹郎氏（昭57）より、貸し出し用に「人と薬の羅針盤」2冊の寄贈がありました。これらの寄贈図書は同窓会室に保管しております。

物 故 者 氏 名

前会報（52号）に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
小 林 茂	特	平24.9.16	村 木 俊 二	昭23	平23.3.14	谷 口 陽 一	昭34	平25.2.28
高 畠 英 伍	特	〃25.1.5	藤 野 義 彦	〃23	〃23.5.23	笹 淵 敬 良	〃35	〃25.4.25
一番ヶ瀬 尚	特	〃25.6.23	吉 井 淳	〃23	〃25.1.23	貞 木 浩	〃41	〃23 頃
柴 田 源一郎	昭9	〃25.4.19	有 永 孝	〃24	〃25.1.15	藤 田 純 子	〃46	〃25.10.18
古 賀 豊 次	〃12	〃25.5.2	千 綿 俊 夫	〃24	〃24.10.10	上 野 精 一	〃47	〃21.4.27
末 本 大	〃15	〃22.7.14	森 可之輔	〃24	〃25.7.30	手井（鄭）光男	〃47	〃15.7.21
深 井 康 三	〃15	〃15.4.-	吉 岡 龍 三	〃24	〃25.9.29	佐々野（加藤）恭子	〃53	〃25.7.5
松本（石丸）允正	〃16.12	〃24.12.19	篠 田 英 夫	〃26	〃25.3.16	甲 斐 豊 子	〃54	〃25.2.5
新 竹 定 男	〃17	〃24.10.26	芳 野 郁 俊	〃26	〃24.12.21	田 島 泰 司	〃54	〃24.12.17
小 林 壽	〃18	〃24.11.13	末 宗 成 二	〃28	〃25.10.8	赤 木 聡	〃56	〃25.8.17
中 溝 潤 市	〃19	〃25.4.3	内 田 敬 親	〃29	〃25.3.20	坂 川 則 子	〃61	〃25.2.11
山 口 憲 治	〃19	〃25.5.18	皆川（松山）恵美子	〃31	〃25.3.24	藤（永田）美代子	〃61	〃24.7.22
神宮司 一 男	〃19	〃25.5.12	藤 本 勝 喜	〃31	〃25.11.4			
谷 口 正 人	〃19	〃25.7.-	江 原 綏 之	〃33	〃25.1.25			
大 浜 宰	〃22	〃25.1.2	下 瀬 正 治	〃33	〃24.10.7			
						計		42名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職 名	氏 名	渡航先国	期 間	渡 航 目 的
出張	教 授	畑 山 範	アメリカ	24.12.15～24.12.20	Japan-USA Organocatalytic Symposium in Hawaii (2012) 参加、情報収集
出張	教 授	田中 正一	アメリカ	24.12.15～24.12.20	Japan-USA Organocatalytic Symposium in Hawaii (2012) にて成果発表
出張	教 授	中山 守雄	オランダ フランス	25.1.12～25.1.18	ライデン大学との大学院生交流に関する覚書締結・打合せ アンジェ大学との学術交流協定打合せ
出張	教 授	畑 山 範	オランダ フランス	25.1.12～25.1.18	ライデン大学との大学院生交流に関する覚書締結・打合せ アンジェ大学との学術交流協定打合せ
出張	教 授	植田 弘師	ド イ ツ	25.2.27～25.3.4	キール大学にて情報交換を行い、またthe German Physiological Society Meetingに参加し情報交換を行う
出張	教 授	黒田 直敬	タ イ	25.2.28～25.3.3	チュラロンコン大学との単位互換に関する打合せ
出張	教 授	中山 守雄	タ イ	25.2.28～25.3.3	チュラロンコン大学との単位互換に関する打合せ
出張	助 教	浅 井 将	イタリア	25.3.4～25.3.12	The 11th International Conference On Alzheimer's & Parkinson's Diseases発表、情報収集
出張	助 教	村 松 渉	アメリカ	25.4.6～25.4.13	245th ACS National Meeting and Exposition参加、情報収集
出張	准教授	城谷 圭朗	アメリカ	25.7.12～25.7.18	AAIC2013学会への参加、研究発表
出張	助 教	浅 井 将	アメリカ カナダ	25.7.13～25.7.20	Alzheimer's Association International Conference 2013 において研究発表をおこなう
出張	教 授	植田 弘師	オーストラリア	25.7.14～25.7.19	The International Narcotics Research Conference 出席および情報収集
出張	教 授	川 上 茂	アメリカ	25.7.20～25.7.26	第40回コントロールドリリリース学会での情報収集と遺伝子・デリバリー研究会第13回夏季セミナーでの発表
出張	助 教	村 松 渉	アメリカ	25.7.27～25.8.3	OMCOS17において、ポスター発表および情報収集をおこなう
出張	准教授	齋藤 義紀	中 国	25.8.2～25.8.21	研究材料の植物に関する実地調査ならびに採集
研修	准教授	北里 海雄	中 国	25.8.12～25.8.23	共同で抗ウイルス薬の共同研究を行ってきた結果の打ち合わせ。研究交流セミナー等
出張	教 授	畑 山 範	シンガポール	25.8.19～25.8.24	The 15th Asian Chemical Congressに出席及び講演
出張	助 教	高橋 圭介	シンガポール	25.8.19～25.8.24	The Asian Chemical Congress 出席、研究成果発表 および資料・情報収集
出張	教 授	中嶋 幹郎	ス イ ス	25.8.31～25.9.6	第49回欧州毒性学会 (EUROTOX 2013) での発表
出張	准教授	大 庭 誠	シンガポール マレーシア	25.9.8～25.9.13	10th Australian Peptide Conferenceでの研究発表
出張	教 授	田 中 隆	中 国	25.10.22～25.10.26	Symposium: Development and Utilization of Natural Products
出張	教 授	植田 弘師	オランダ ドイツ ア メ リ カ	25.10.31～25.11.13	Ad Ijzerman先生（オランダ ライデン大）との研究打合せ。他

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏 名	所属研究室	備 考
25. 1. 31	退 職	助 教	渡 邊 健	感染分子薬学	医歯薬学総合研究科 新興感染症病態制御学系専攻 助教 (リーディング大学院) へ
25. 2. 15	採 用	助 教	酒 井 佑 宜	分 子 薬 理 学	有期雇用 京都大学大学院特別研究員より
25. 2. 15	採 用	助 教	水 谷 龍 明	分 子 薬 理 学	有期雇用 オーストリア ルードヴィッヒ・ボルツマン癌研究所博士研究員より
25. 3. 31	退 職	准教授	原 武 衛	衛 生 化 学	崇城大学薬学部薬学科教授へ
25. 4. 1	採 用	教 授	川 上 茂	医療情報解析学	京都大学大学院薬学研究科講師より
25. 3. 31	退 職	助 教	江 頭 かの子	病 院 薬 学	退職後、准教授 (有期雇用) として採用
25. 4. 1	採 用	准教授	江 頭 かの子	病 院 薬 学	有期雇用 医歯薬学総合研究科 (薬) 助教より
25. 5. 27	採 用	助 教	水 田 賢 志	分 子 薬 理 学	有期雇用 英国オックスフォード大学より
25. 8. 15	退 職	准教授	黒 須 洋	分 子 薬 理 学	東京大学大学院特任研究員へ
25. 8. 31	退 職	准教授	城 谷 圭 朗	薬品生物工学	有期雇用 退職後、准教授として採用
25. 9. 1	採 用	准教授	城 谷 圭 朗	薬品生物工学	医歯薬学総合研究科 (薬) 准教授 (有期雇用) より
25. 9. 1	採 用	助 教	永 井 潤	分 子 薬 理 学	有期雇用 医歯薬学総合研究科 (薬) 技能補佐員 より
25. 9. 24	採 用	助 教	内 田 仁 司	分 子 薬 理 学	有期雇用 日本学術振興会特別研究員より

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
甲第582号	博士 (薬学)	ササキケイタ 佐々木恵太	平成25年3月19日	甲第620号	博士 (薬学)	ヤノ リョウ 矢野 亮	平成25年9月 4 日
甲第583号	博士 (薬学)	エトウ コウヘイ 江藤 康平	平成25年3月19日	甲第625号	博士 (薬学)	ポール ジヒア ギシュヒ Paul Njihia Gichuhi	平成25年9月19日
甲第584号	博士 (薬学)	モハメド ショフィクル ローマン Mohammed Shafikur Rahman	平成25年3月19日	甲第626号	博士 (薬学)	アムガドイブラヒムマンソールヘドル AMGAD IBRAHIM MANSOUR KHEDR	平成25年9月19日
甲第585号	博士 (薬学)	ミヤモト ヒロタカ 宮元 敬天	平成25年3月19日	甲第627号	博士 (薬学)	シュ チンチャン 朱 欽 昌	平成25年9月19日
甲第598号	博士 (医学)	シミズ テツペイ 清水 哲平	平成25年3月19日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成25年 9 月)

本部役員

会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
副 会 長	田 原 務	昭和51年	うれり薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 長大病院薬剤部長
〃	七 種 均	昭和56年	N T T 西日本長崎病院薬剤科薬剤長
〃	中 嶋 幹郎	昭和57年	薬学部教授
〃	藤 島 さとみ	平成 3 年	つばさ薬局
監 査	原 田 均	昭和51年	
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	梶 島 力	平成 4 年	薬学部准教授
編集幹事	川 上 茂	平成 7 年	薬学部教授
幹 事	高 橋 圭 介	平成13年	薬学部助教
幹 事	松 尾 洋 介	平成15年	薬学部助教
幹 事	稲 嶺 達 夫	平成18年	薬学部助教
顧 問	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	

学年理事

昭和20年	池 田 保 彦	昭和45年	中 村 博	平成 5 年	森 本 仁
昭和22年	田 崎 和 之	昭和46年	大 西 裕 子	平成 6 年	岩 永 理
昭和23年	中 原 潜	昭和47年	松 本 逸 郎	平成 7 年	中 尾 有
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和48年	井 手 清 輝	平成 8 年	大 脇 裕
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和49年	馬 場 満 輝	平成 9 年	平 良 文
昭和26年	峰 崎 唯 信	昭和50年	北 村 美 江	平成10年	岸 川 直
昭和28年	吉 田 一 美	昭和51年	原 田 均	平成11年	水 野 和
昭和29年	野見山 季 治	昭和52年	池 崎 隆 司	平成12年	松 永 隼
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和53年	佐々木 均	平成13年	兒 玉 幸
昭和31年	宮 崎 圭 介	昭和54年	濱 田 哲 也	平成14年	小 西 宏
昭和32年	長 田 雅 子	昭和55年	大 田 佳 史	平成15年	原 田 規
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和56年	山 口 正 広	平成16年	高 原 井
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和57年	高 良 真 也	平成17年	永 井 井
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和58年	宮 崎 幹 雄	平成18年	細 井 井
昭和36年	武 田 成 子	昭和59年	中 村 忠 博	平成19年	筒 井 井
昭和37年	吉 田 研 次	昭和60年	塩 田 英 雄	平成20年	簡 桑 三
昭和38年	岡 木 隆 治	昭和61年	本 多 隆 隆	平成21年	中 浦 本
昭和39年	鈴 村 祐 子	昭和62年	森 川 朝 光	平成22年	川 中 鍋
昭和40年	平 山 文 俊	昭和63年	神 山 奈 奈 子	平成23年	朝 長 義 早
昭和41年	井 上 一 顕	平成 1 年	白 川 隆 志	平成24年	
昭和42年	井 上 志 郎	平成 2 年	山 本 隆 志	平成25年	
昭和43年	井 上 和 子	平成 3 年	北 原 隆 志		
昭和44年	中 村 和 子	平成 4 年	梶 島 力		

院 1 ～ 院 5 (昭和42年～昭和46年) 富永 義則 (昭和46年)
 院 6 ～ 院 10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院 11 ～ 院 15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院 16 ～ 院 20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院 21 ～ 院 25 (昭和62年～平成 3 年) 本多 雅幸 (平成 1 年)
 院 26 ～ 院 30 (平成 4 年～平成 8 年) 富田 守 (平成 4 年)
 院 31 ～ 院 35 (平成 9 年～平成13年) 原田 祐樹 (平成 9 年)
 院 36 ～ 院 43 (平成14年～平成18年) 大山 要 (平成14年)
 院 44 ～ 院 53 (平成19年～平成23年) 竹尾 公秀 (平成19年)
 院 54 ～ 院 (平成24年～) 上野まどか (平成24年)

長 薬 同 窓 会 支 部 一 覧

(平成25年11月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	濱 田 哲 也 (昭 54)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	宮 崎 圭 介 (昭 31)
長 崎 県 央 支 部	支部長	中 村 和 子 (昭 44)
佐賀支部若楠会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部	支部長	
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜一郎 (院昭55)
山口支部抜天会	会 長	今 村 明 久 (昭 46)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三千代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁 (昭 42)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	樋 口 宗 司 (昭 42)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

平成24年度長薬同窓会収支決算報告

平成25年 3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	8,201,557	通 信 費	1,026,335
会 費 (延2446名)	7,338,000	総 会 案 内 ・ 会 報 発 送 料	620,698
入 会 金 等	1,092,000	振 替 加 入 者 負 担 金	205,670
預 金 利 息	1,553	事 務 連 絡 郵 便 料	135,370
雑 収 入	8,700	電 報 電 話 料	64,597
		印 刷 費	1,038,484
		会 報 他 印 刷 費	1,038,484
		会 合 費	62,559
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	62,559
		旅 費	738,120
		会 長 出 張 費	279,120
		役 員 そ の 他 出 張 費	459,000
		補 助 費	1,016,000
		総会および支部会補助金	480,000
		そ の 他 補 助 金	536,000
		維 持 管 理 費	184,110
		原 爆 慰 霊 碑	151,224
		小 野 島 記 念 碑	32,886
		事 務 費	183,898
		事 務 用 品 費	13,185
		電 算 機 費 用	170,713
		人 件 費	2,640,129
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	33,600
		臨 時 雇 員 手 当	1,576,529
		雑 費	408,598
		会 員 見 舞 弔 慰 金	141,065
		そ の 他	267,533
		次 年 度 繰 越 金	9,343,577
合 計	16,641,810	合 計	16,641,810

会計幹事、梶島力氏立会のもと、平成24年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

平成25年4月7日

監 査

原 田 均 

平25年度長薬同窓会予算

平成25年 4 月 1 日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	9,343,577	通 信 費	1,900,000
会 費 (延2600名)	7,800,000	総会案内・名簿・会報発送料	1,200,000
入会金等(6年制41名+4年制41名)	1,148,000	振替加入者負担金	300,000
預 金 利 息	1,800	事務連絡郵便料	300,000
名 簿 広 告 料	650,000	電 報 電 話 料	100,000
		印 刷 費	4,000,000
		名 簿 ・ 会 報 他 印 刷 費	4,000,000
		会 合 費	60,000
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	60,000
		旅 費	1,100,000
		会 長 出 張 費	400,000
		役 員 そ の 他 出 張 費	700,000
		補 助 費	1,150,000
		総会および支部会補助金	600,000
		そ の 他 補 助 金	550,000
		維 持 管 理 費	210,000
		原 爆 慰 霊 碑	180,000
		小 野 島 記 念 碑	30,000
		事 務 費	250,000
		事 務 用 品 費	50,000
		電 算 機 費 用	200,000
		人 件 費	3,064,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	34,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,000,000
		雑 費	550,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	150,000
		そ の 他	400,000
		予 備 費	6,659,377
合 計	18,943,377	合 計	18,943,377

新刊図書のご紹介

「人と薬の羅針盤」

じほう発行 定価2,940円（税込）

吉岡 優子（昭56）

過去の医薬の歴史に学び、
未来を創造する使命を持った医学・薬学を志す者、
医療従事者にぜひ読んでほしい1冊。
そして待合室で患者さんの手にとって貰いたい1冊である

地中海を取り巻く古代エジプトから古代ギリシア、
そして帝政ローマに至る西洋医学・薬学の痕跡を巡る



B5横判／オールカラー223ページ

医薬分業は、1240年神聖ローマ帝国の皇帝フリードリッヒ2世の「皇帝の書」に始まると言われている。なぜ、「医」と「薬」の分離が必要であったのだろうか。その答えは歴史の中にある。本書はその答えをみつけに地中海を取り巻く古代の国々（エジプト、ギリシア、トルコ、イタリア）を巡った医薬の歴史紀行である。

750点余に及ぶ写真を掲載。医薬の歴史とともにその時代の政治、宗教、美術、芸術、生活様式なども取り上げている。ギリシア語のパルマコンpharmakonは、「薬」と「毒」の2つの意味がある。薬と毒は表裏一体であり、薬は人類の知恵の賜物でもあるが、使い方を間違えれば死を導く毒薬となる。

※全国の書店にてお求めください。

同窓会報にて新しく創刊された卒業生の出版物を紹介しています。出版された方は、同窓会事務局までお知らせください。

事務局で扱っている図書等

長薬同窓会49号でお知らせいたしましたが、在庫がありますのでご希望の方は事務局までお申し込みください。

「出島のくすり」九大出版会 定価1,400円（税別）を1,200円（送料込み）

日蘭交流400周年記念事業として、平成12年に長大薬学部教官により制作のもの。

「長薬100年のあゆみ」ビデオ（VHS）3,000円、DVD 3,500円（送料込み）

貴重な懐かしい写真・映像を2時間にわたり収録

「長崎薬専歌集」CDまたはカセットテープ（楽譜・歌詞カード付き）1,500円（送料込み）

同窓会事務局だより

今年は3年に一度の名簿発行と同時進行で慌ただしい日が続きました。

原稿締め切りまでに期間がなく、急ぎご寄稿くださった方誠にありがとうございました。写真なども出来るだけ沢山掲載していますので、クラス会などへ参加出来なかった方々も懐かしく見ていただけたと思います。会報が情報交換の一助となれば幸いです。

また、皆様のご協力により同窓会を運営しており、同窓会の将来を担う在学生への支援等も行っています。会費納入にご協力お願い致します。なお、次回名簿発行時より、名簿発送の滞納額の限度が15,000円（5年分）から9,000円（3年分）に減額されます。9,000円納入いただければ名簿を発送することとなりました。よろしくお願い致します。

武次 郁子 記

編集後記

長薬同窓会会員の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜びを申し上げます。ここに平成25年版、同窓会会報をお届けいたします。今回は編集幹事となって初めての編集でしたが、編集作業を行って頂いた武次さん、宮元先生、投稿して頂いた会員の皆様のご協力により無事終えることができました。今後、長薬出身の薬学・薬剤師のリーダーを育てていくためには、経験のある諸先輩方のご指導、ご鞭撻が必要不可欠だと思います。今後も、会員の皆様には、同窓会会報、長薬同窓会定期総会、各支部会活動を通じて、更なるご支援、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

川上 茂 記

平成25年12月20日印刷

平成25年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 川上 茂

発行 長薬同窓会

（郵便番号852-8131）

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383（直通）

095-819-2471（ダイヤルイン）

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

（郵便番号870-0913）

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-73-7288



長崎大学薬学部 長薬同窓会